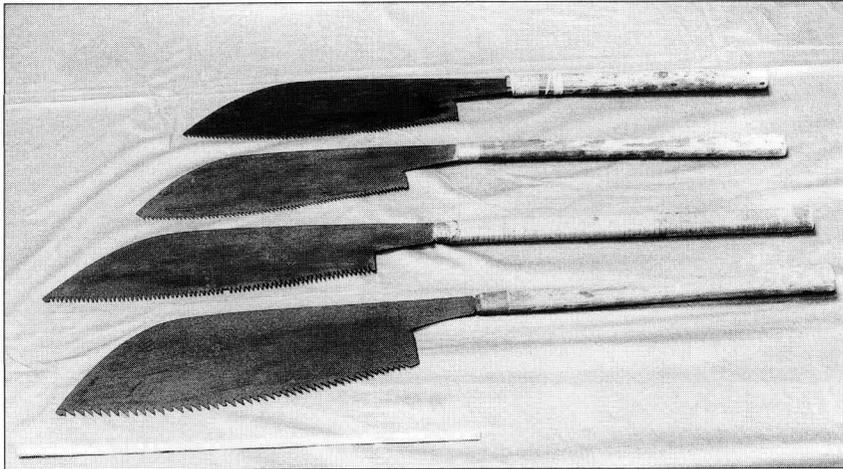


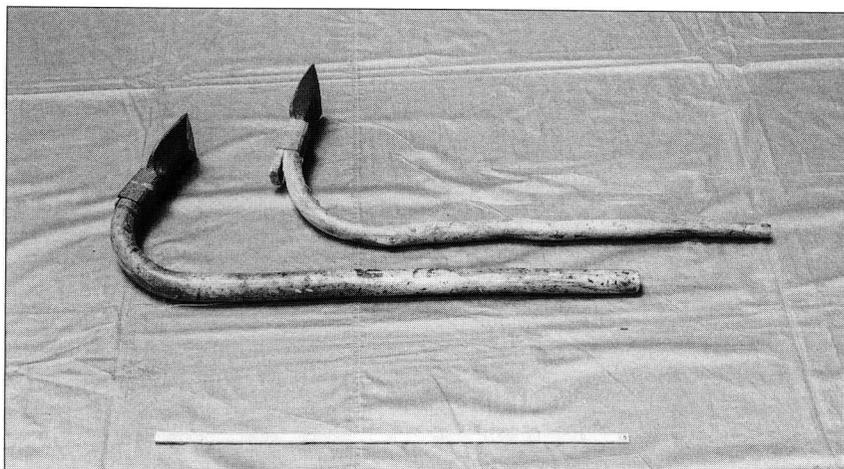
VI 船大工道具



すり合せノコ



ヨリキ



チョウナ

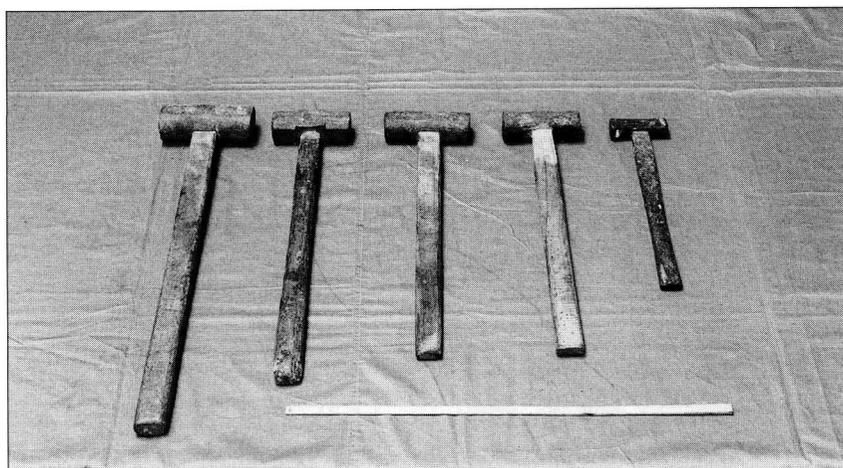


ツバノミ

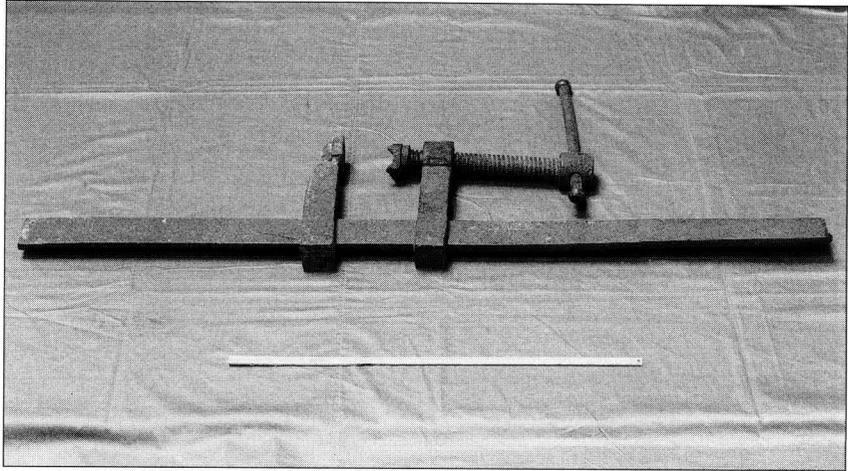
手前左側より3番目は片つばのみ、4番目はきりつばのみ、
右側から4番目を丸つばのみという



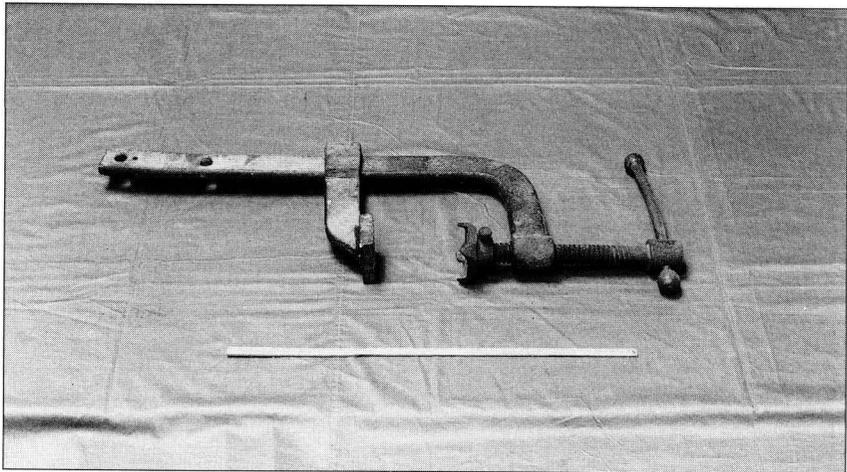
上段・マワシビキ, 下段・両刃ノコ



ゲンノウ



キリン
大型



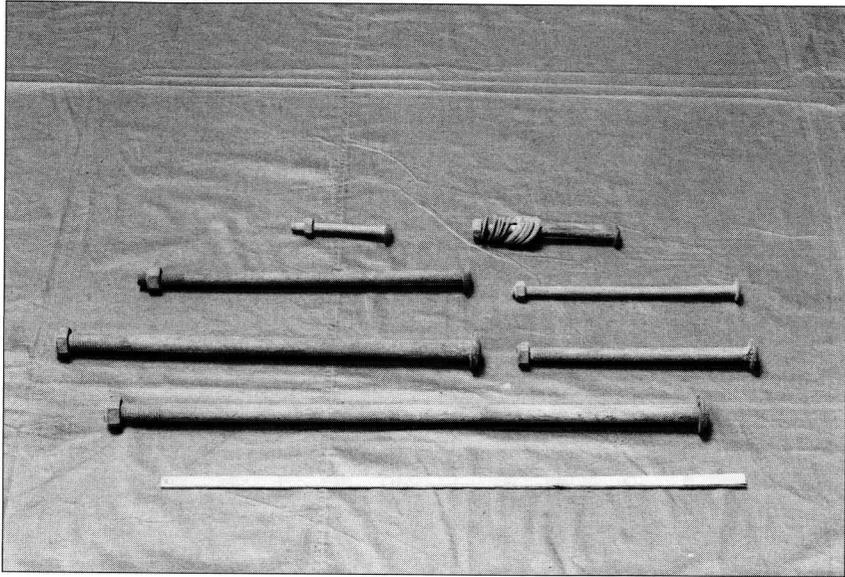
キリン
中型



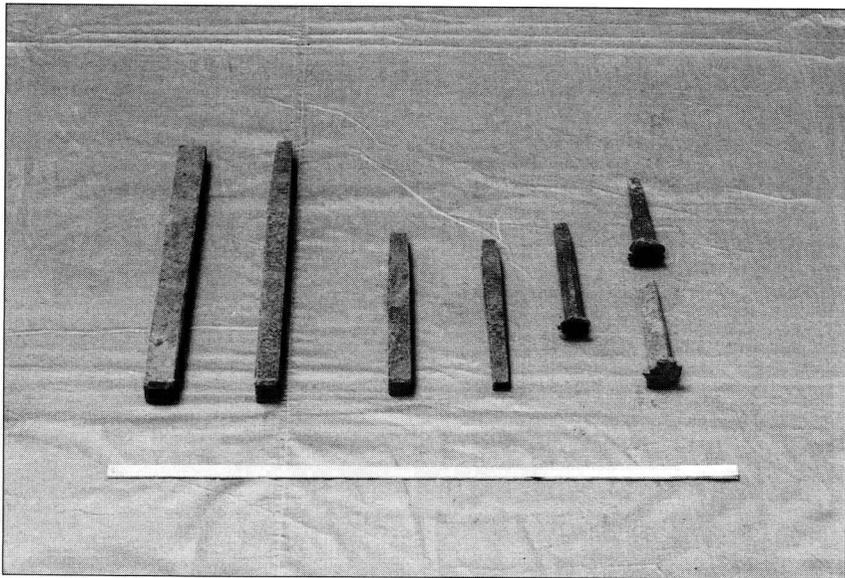
ヤトコとマキハダ
水もれを防ぐマキハダをつめる道具



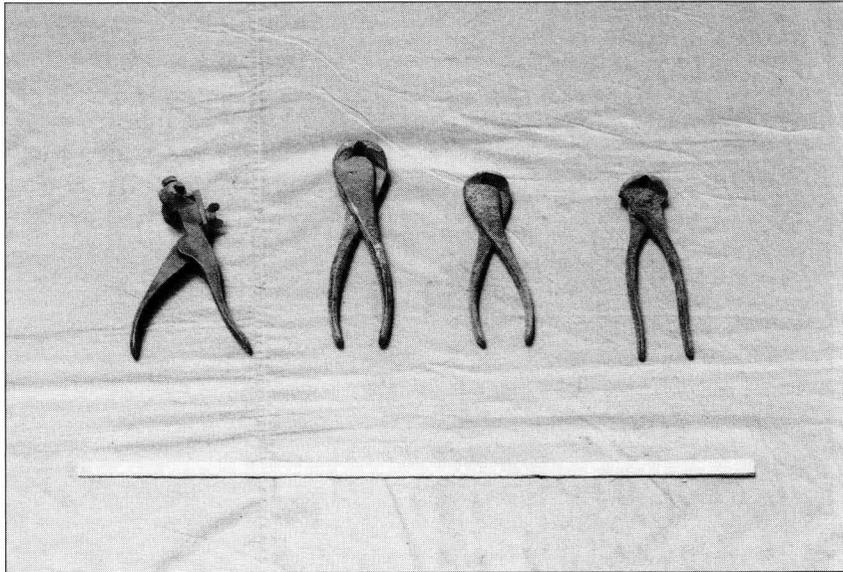
ミゾカンナ
左下二番目は丸カンナ



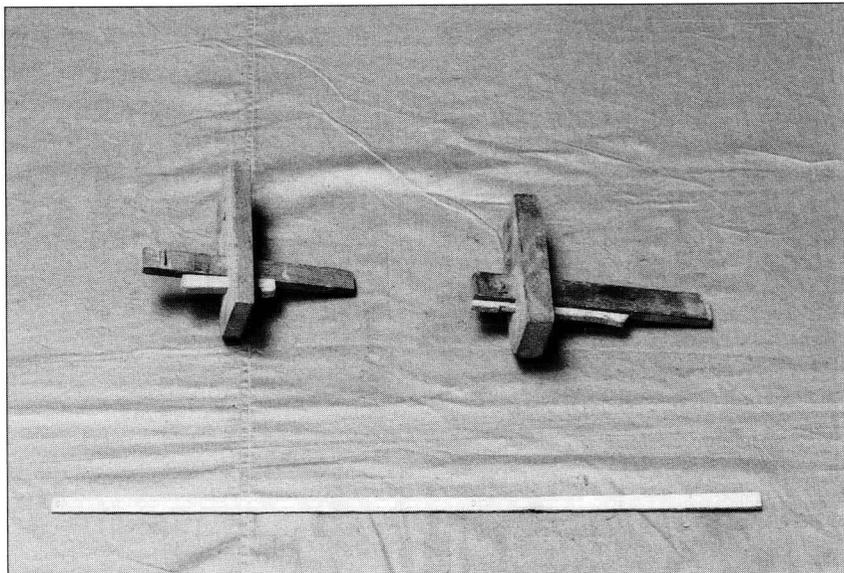
タックボルト
止め金具



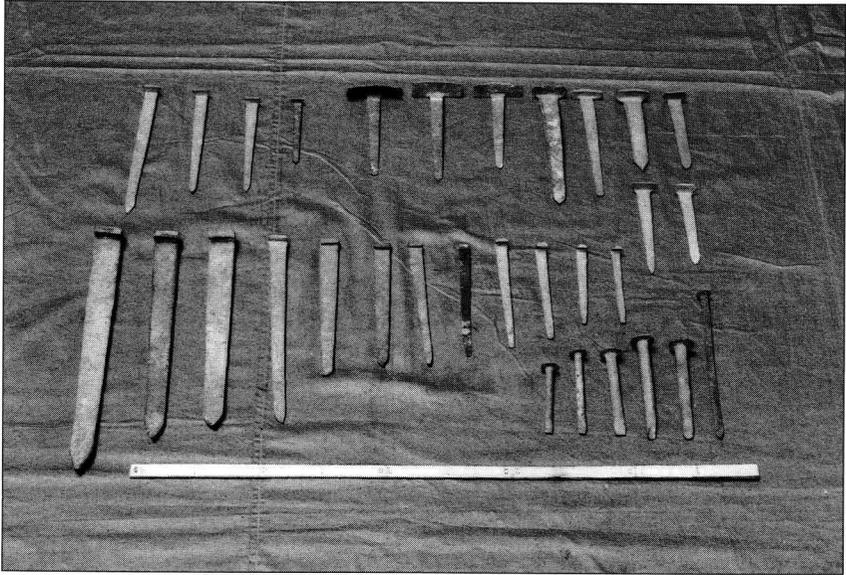
クギシメ



クイキリ
やっこ



ケシキ
巾を決めるスジをつける道具

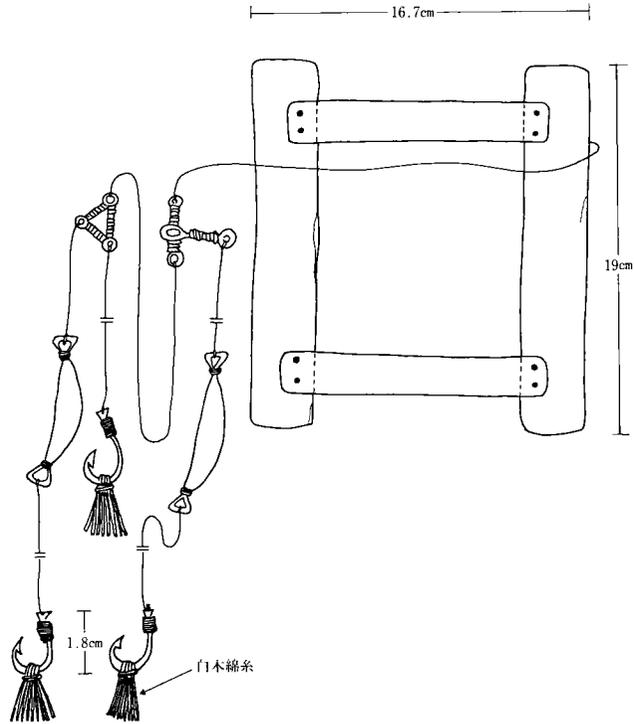


オトシクギ, カイオリクギ, トオシクギ

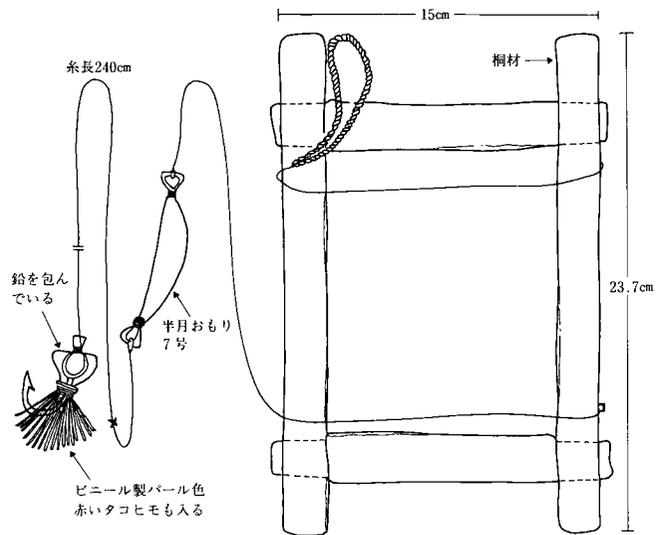


キツチ (ホンコンづち)
右側 2 本はヤトコ

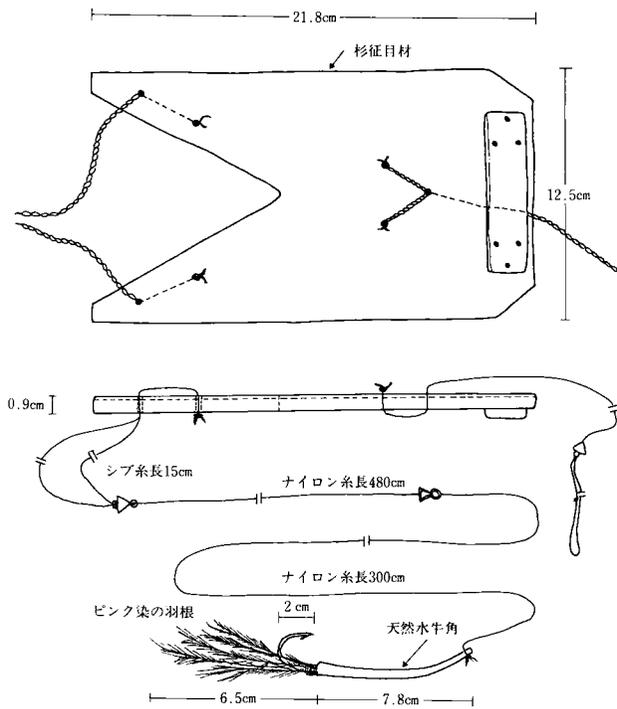
VII 実測図



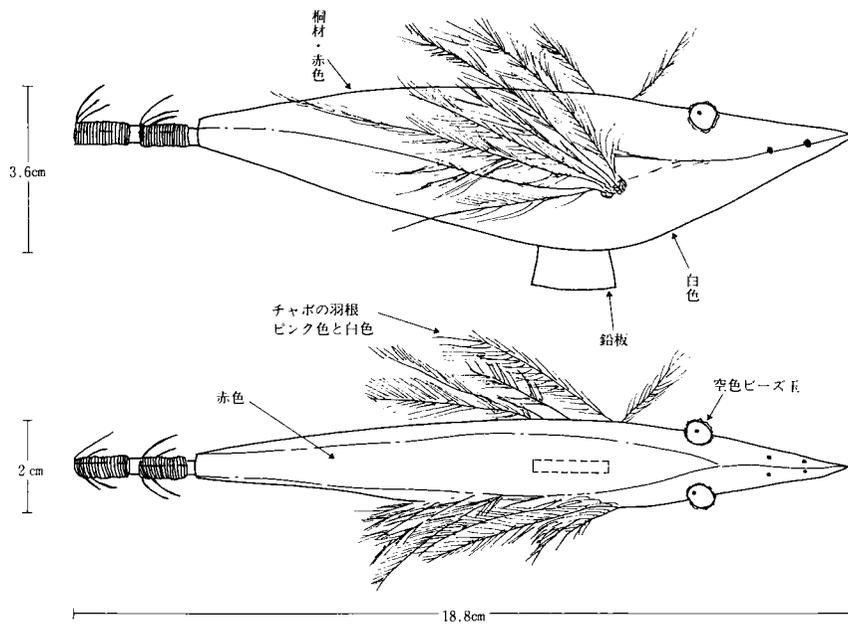
イサキ用しかけと糸巻



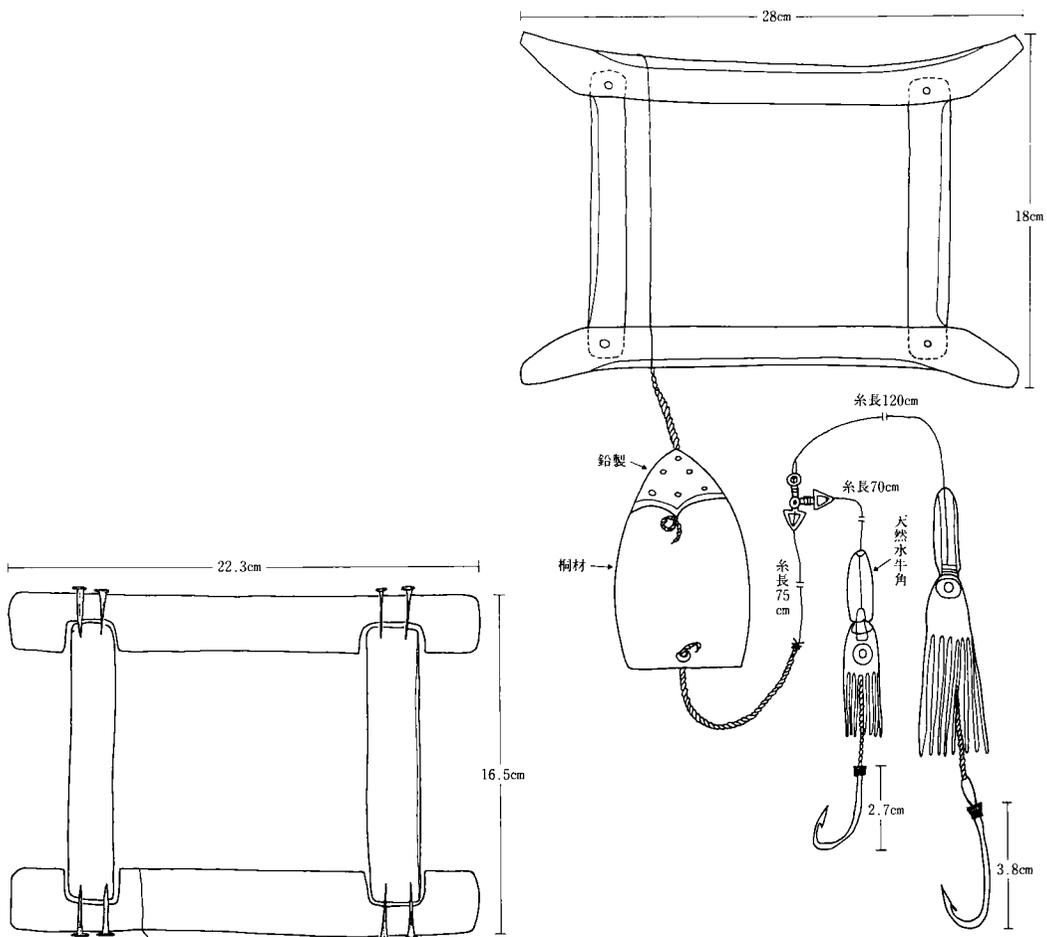
イサキ用しかけと糸巻



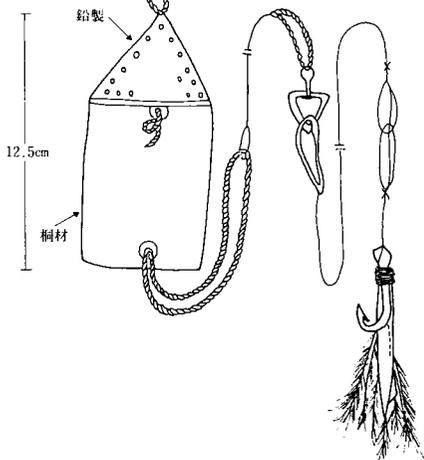
ヒラメ用しかけ



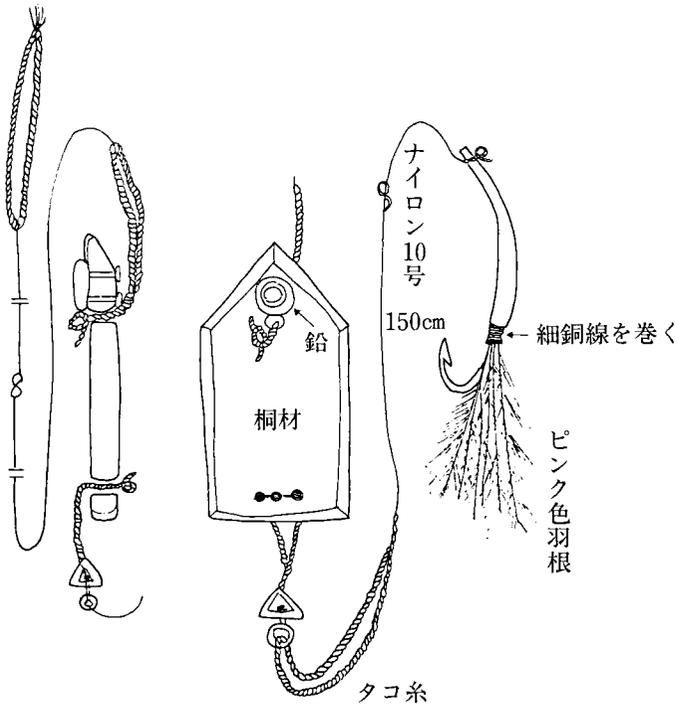
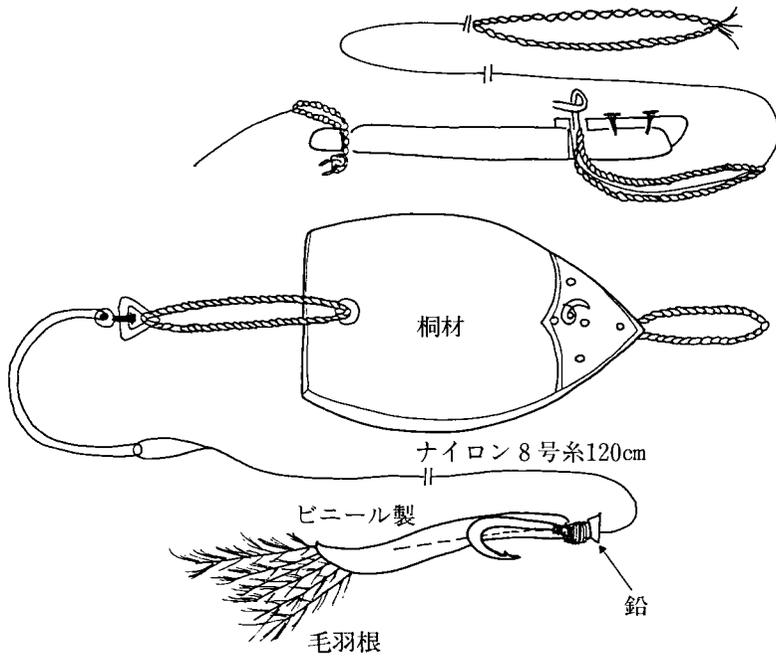
イカツノ (疑似針)



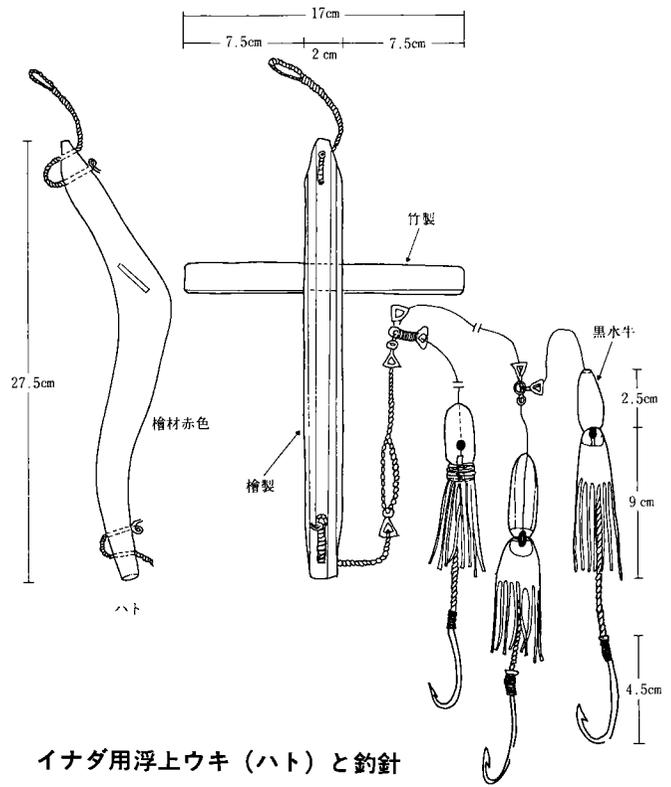
イナダ用しかけ (糸巻き付き)



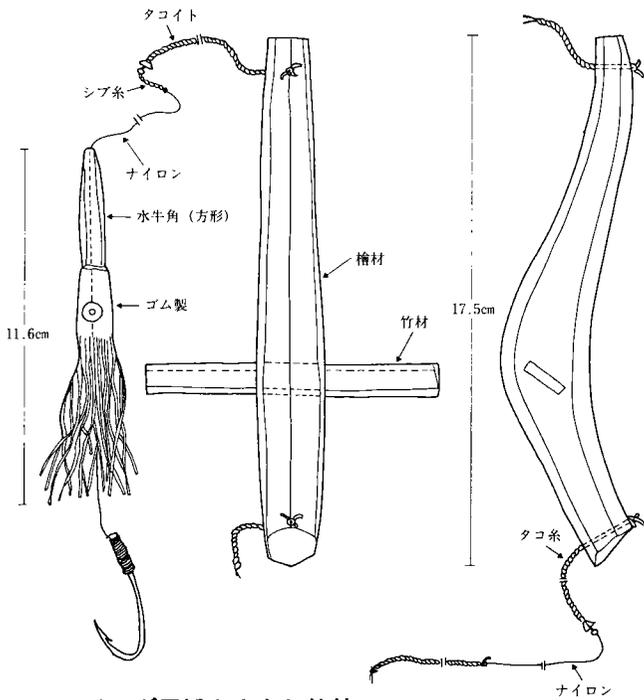
イナダ用しかけ (糸巻き付き)



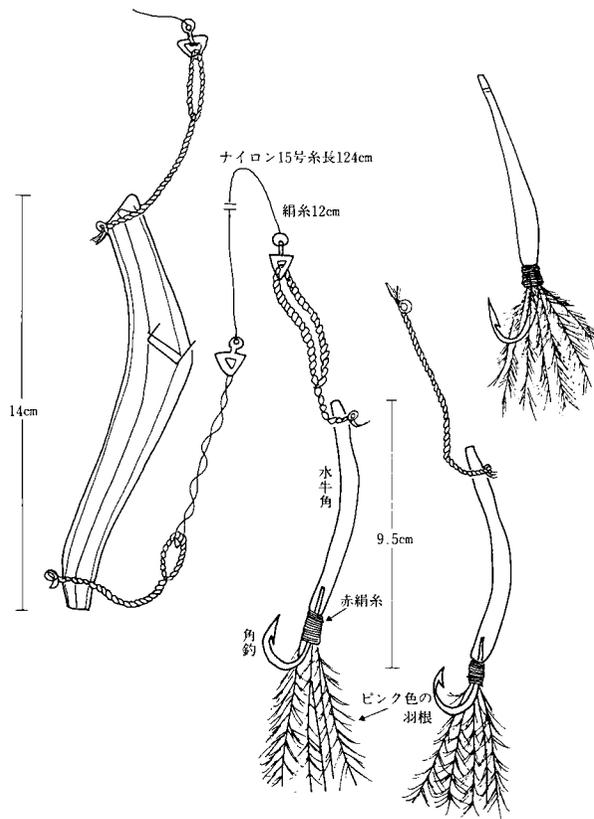
イナダ用仕かけ



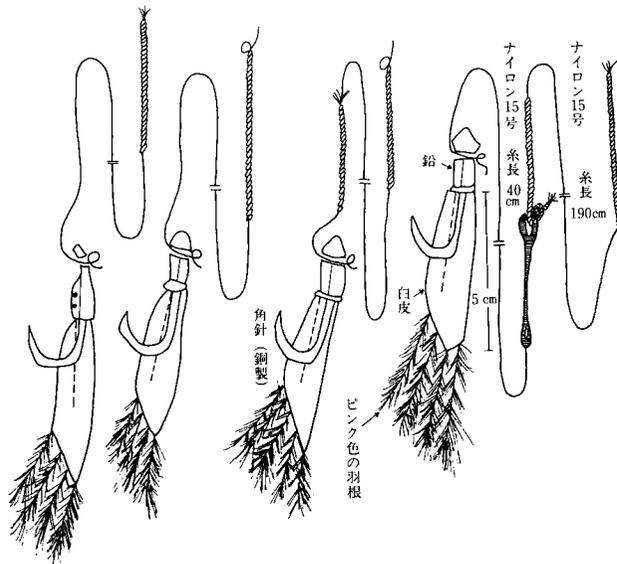
イナダ用浮上ウキ (ハト) と釣針



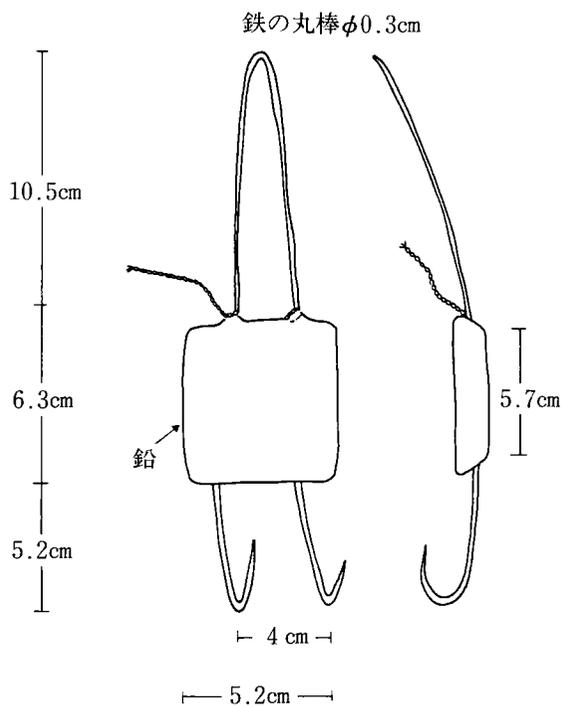
イナダ用浮上ウキと釣針



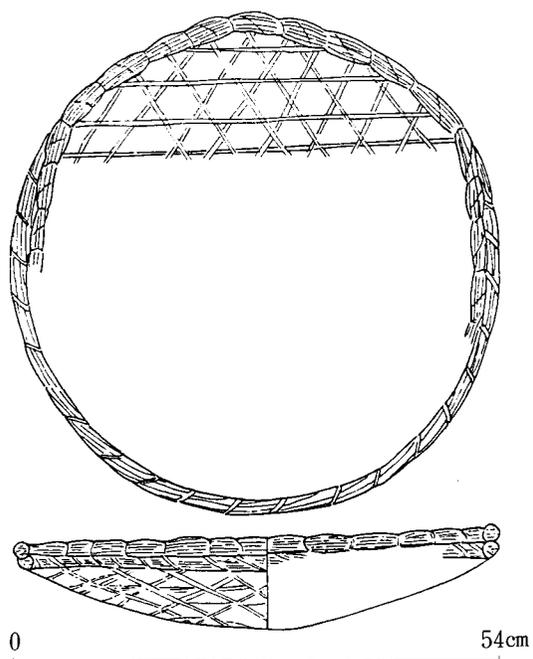
イナダ用浮上ウキと釣針



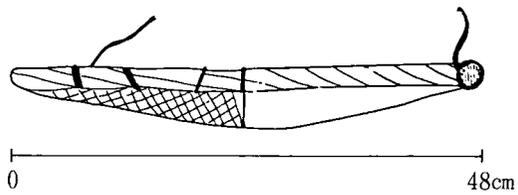
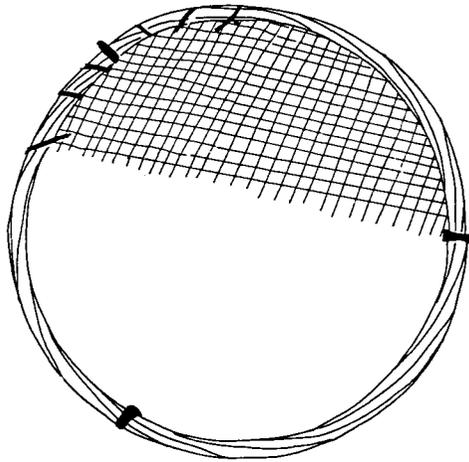
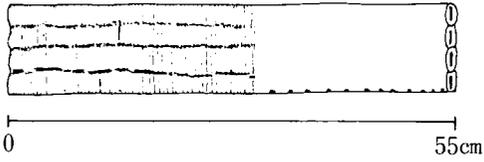
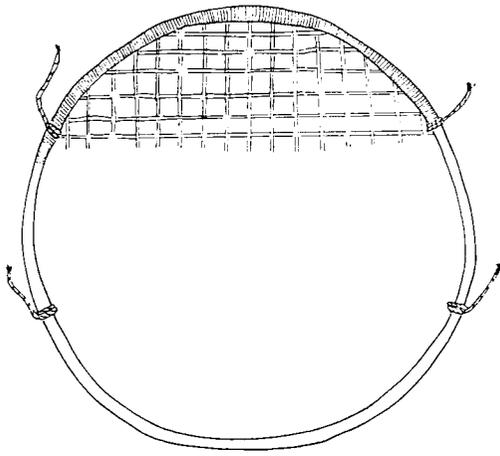
イナダ一本釣用ハリスと釣針



タコテンヤ



ナワバチ (半周だけシュロでまいて保護している)



ダイワ (籐製)

3 古老に聞く

地元の小坪で古くから漁に従事しておられる草柳重太郎氏（大正7年生）と一柳由蔵氏（明治44年生）に、漁の様子を聞き取り調査した内容を抜粋して載せてあります。

平成3年9月26日、草柳宅にて—

逗子市漁労具調査団（以下「調査団」とする）—本日は、お忙しい折にお邪魔して申し訳ございません。今日お伺いしたのは、当調査団が逗子市教育委員会の委託により、小坪の漁労具を調査する仕事を請け負っておりますが、漁労具の使い方とか漁の仕方については、実際に漁をなさっていた方々のお話を伺う必要がありますので、お伺いした次第です。よろしく願いいたします。

調査団—まず最初に伺いますが、漁の仕方について、一本釣りがありますが、一本釣りをやる人は縄も一緒にやりますか。

草柳氏—縄をやっているのは、今はないね。

一柳氏—ほとんどないね。

調査団—ボウチョウでとれるものは何んですか。

草柳氏—今とれるのは、サザエかアワビぐらいのもんかね。それとタコもね。

調査団—季節によっては、ワカメなんかもボウチョウでとりますか。

草柳氏—そうだね。

調査団—今、あんまりテングサを干している家を見かけないんですが。

草柳氏—テングサは、4月か5月だね。買い手がないから自分で食べるのにとるんだよ。

調査団—マス網なんかは、今やってないんですか。

草柳氏—俺はやってるな。でも今はほとんどやっていないって言う方がいいね。1軒か2軒だから。

調査団—ボウチョウでトコブシなんて細かいからとらないでしょう。

草柳氏—それ専門にとる人はいないね。

調査団—アワビを主としてとるのは何月頃ですか。

草柳氏—10月、11月からかな。よそでは、11月、12月はとれなかった。繁殖の時期だからね。

調査団—漁業組合からのとっちゃいけないという季節がある訳ですね。

調査団—1月の漁はどうですか。

一柳氏—1月になると漁は少なくなるね。1月になって来ると潮が見えなくなっちゃうから。

調査団—ボウチョウはだいたい2月頃までですか。

草柳氏—アワビなんか若い者だけだもの。

調査団—サザエも結局同じですね。

一柳氏—同じだね。

調査団—それにあとワカメは何月ぐらいから。

草柳氏——ワカメは2月から4月いっぱいだな。遅くなると腐っちゃうからね。

一柳氏——水が悪くなっちゃうから。

調査団——あとはボウチョウでとれるものは、ナマコがあるんだけど。ナマコはいつ頃ですか。

草柳氏——寒いうちにとるんだけどね。

調査団——1月ですか。

草柳氏——1月からだね。

調査団——タコは。

草柳氏——タコは1年に1回はとるけどね。

調査団——年間とれますか。

草柳氏——年間とおして船出してみれば、うっちゃってくるものないからね。

調査団——でもいつ頃が一番いいんですか。

一柳氏——あったかい時期が一番いいのかな。

草柳氏——前には5月、6月が一番よかったけど。

調査団——ボウチョウでとるもんで他には何か、例えばバイとかワタリガニとか、タマ、トコブシとかは。

草柳氏——ワタリガニは少なくなっちゃったね。今年はまるつきりだめだ。

調査団——み^ア突きは、この辺ではボウチョウというんだよね。

調査団——ボウチョウって言葉自身よくわからないんだけど、ボウチョウっていうのは漁のことを言うんですか、それとも船のことを言うんですか。

草柳氏——ボウチョウは漁のことだね。

調査団——そのボウチョウの漁に使う道具の名前を知りたいんですが、ワカメをとるのはカマですか。

草柳氏——カマだね。

調査団——突くモリは。

一柳氏——フシっていうね。

—省 略—

調査団——昔は小坪の辺でもカツオの一本釣りをやってた人がいるんですか。

草柳氏——今、それを知っているのは、タカハシカネキチさんぐらいのもんだよ。カツオ釣りをやってた人はこの人ぐらいだ。

調査団——その一本釣りなんですけど、アジ・サバを一本釣りでやったというのは、だいたいいつ頃の季節ですか。

草柳氏——秋だな。9月・10月。

調査団——マダイは、今やっている人はいないと思うけど、だいたいいつ頃。

草柳氏——釣客用にやっている人はいるよ。

一柳氏——年間通してやっているよ。

草柳氏——釣れる時期はあるんだろうけど。

調査団——メバル、カサゴなんかを釣ってんのは。

草柳氏——ほとんど今は網でとるから、一本釣りはやってない。

調査団——とれる時は秋口ですか。

草柳氏——今は、秋口が多いな。寒くなんなきゃね。

調査団——タイは昔だったら、いつ頃がいいんですか。普通はサクラダイっていうけどね。

草柳氏——5月頃ね。今は全然食べなくなっちゃったね。いくらもとれないけどね。

調査団——漁業組合のほうの資料では、縄やってる漁がキスとアマダイとカサゴってことになっ
てるけど時期はいつ頃ですか。

一柳氏——キスは5月、6月だね。

草柳氏——カサゴの縄なんか、いま誰もやんないね。

一柳氏——やんなかったね、今年は。

調査団——前にカサゴの縄をやっていた時の季節はいつ頃ですか。

草柳氏——寒い時期で1月、2月頃じゃないのかな。

調査団——網について聞きたいんですけど、いわゆる刺し網の仲間で、エビ網とかメバル網とか
ボラ網とか、カマス網とかそういう名前の網ってあるんですか。

一柳氏——あるな。

調査団——物は同じなんでしょう。

草柳氏——そうだね、網を張る所が違うからね。自分の好きな所でやるから。

調査団——網を張る場所によって、色んな物がとれちゃうんですね。サザエもとれたんでしょう、
確か。ともかく刺し網は主としてエビをとろうとしている訳だし、イセエビの時期は
いつ頃ですか。

草柳氏——禁漁が6・7月で、それ以後にやる訳だから8月から次の年の5月までね。一番とれ
る時期はその年によって違うけど、でも解禁当初が一番いいんじゃないのかな。

調査団——マス網でとるアオリイカはいつ頃から盛んになるんですか。

草柳氏——普通は5月が盛りだけだね。4月頃から入っていくんだよ。

調査団——定置網で一番とれる魚は何ですか。

草柳氏——やっぱり、アジ・サバだね。

調査団——イナダの釣れる時期はいつですか。

一柳氏——10月から盛りだけど、今年はイナダが安いからね。

調査団——ソーダガツオの一本釣りはやらないんですか。

草柳氏——今はやらないね、エサにシラスを使うから高くなっちゃうからね。

調査団——ここではキンメダイとかムツは釣らないんでしょう。

草柳氏——長井の方に行くと釣れるんだけどね。

調査団——小坪の漁というと、昔はボウチョウが主だったんでしょう。

一柳氏——そうだね、ボウチョウが主だからな。

調査団——だいたい年間の漁の様子に分ったんですけどそれ以外に、昔やっていた漁を知りたいんですが。例えばバイをとるバイカゴとか、これは「シュウトメ」ともいうんですか。

草柳氏——そうだね。どういう訳でシュウトメになったのかね。

一柳氏——今は全然いないもんね。

草柳氏——昔はやっていたということだね。

調査団——その他のもので、今はとってないみたいだけどヒジキなんて昔はとってるんでしょう。

一柳氏——この辺ではとらないね。

草柳氏——とらない。よそからとりに来たりするよ。

調査団——とれる季節はいつ頃なんですか。

草柳氏——春かな、ワカメの時期だね。

—省 略—

調査団——風の呼び方なんですけど、北風は何と言うんですか。

草柳氏——北風はナレ、東風はコチで、南風のことはみんなまとめてカゼっていったるよ。

調査団——あいだの風、例えば北東の風は何と言うんですか。

草柳氏——イナサだね。

調査団——海の静かな状態をナギ、荒れている状態をシケといいますよね。この辺でもそういうふうにありますか。

草柳氏——そうナギとシケだね。

調査団——風が吹くと、海に三角の白波が出ますよね。三崎ではそれをウサギがとんでると言うんですよ。この辺では言わないですか。

草柳氏——この辺じゃそんなこと言わないね。土地によって全然違うからね。この辺じゃツボオリって言ってるね。

—省 略—

調査団——今日はどうもありがとうございました。

III 三浦半島の漁労史（附編）

三浦半島出土の弥生時代から
室町(戦国)時代の漁撈具について

——釣針・網錘・回転銚頭・アワビオコシ——

鈕持 輝久

1 はじめに

三浦半島には縄文時代から室町（戦国）時代まで、漁撈具やその対象となった動物の遺存体を出土する貝塚や洞穴遺跡などが、100を越える数で存在する。これらの貝塚や洞穴遺跡からは多くの漁撈関係の遺物が出土しており、1892年に若林勝邦が「石器時代の釣鉤」^{註1)}と題して久比里（江戸坂）貝塚の釣針を発表して以来、漁撈具や動物遺存体の研究が多くの先覚によってなされてきた。

しかし、その多くが縄文時代のものであり、農耕を中心とした社会が発達した弥生時代以降の漁撈については、あまり目が向けられてこなかった。そこで、本論では三浦半島という地域で弥生時代以降、漁撈の中心ともいうべき、釣漁法の釣針、網漁法の網錘と刺突漁法の回転銚頭、貝採集のアワビオコシの伝来・発達についてまとめてみたい。

本来ならばヤスやアワビカギなどの漁撈具も、まとめなければならないが紙数の関係で別の機会に発表したい。なお、出土漁撈具の時代・時期については原則として、報告書にされた表現をそのまま用いた。

2 釣針

弥生時代～古墳時代前期

現在までに弥生時代から古墳時代前期（五領期）の釣針は、完形品、破片および、未製品を含めて単式釣針が21、組合せ釣針が4出土している。

単式釣針

単式釣針は猿島洞穴2（久ヶ原・弥生町期 図4-3）、雨崎洞穴2、大浦山洞穴1（宮ノ台期 図4-1）1（宮ノ台～久ヶ原期）、間口A洞穴4（宮ノ台期 図4-2）3（久ヶ原期 図4-4）、毘沙門B洞穴1（久ヶ原・弥生町期）、毘沙門C洞穴2（久ヶ原期）、西ノ浜洞穴1（弥生後期）、海外第1洞穴2（久ヶ原期）、池子No1遺跡2^{註2)}（宮ノ台期）が出土。

単式釣針の材質は、毘沙門B洞穴の青銅製のものを除いて、いずれも鹿角製である。大きさも小は大浦山洞穴の軸長が2.2cmのものから、大は間口A洞穴の8.7cmのものまであり、5cm前後のものが多い。形態がわかるもののうち無鏝のものが9、有鏝のものが4である。有鏝のうち内鏝のものは大浦山洞穴他1、外鏝のものは毘沙門C洞穴他1である。軸頂部は無鏝・有鏝ともに丸く脹らみ外側へ突出している。猿島洞穴と大浦山洞穴の小型のものは、脹らみの下に糸掛け用の浅い凹みがある。釣針の全体の型としては、間口A洞穴と大浦山洞穴の小型のものを除き、ふところ幅に対して軸長が長いという傾向がある。軸も真直かやや内湾する程度である。曲りから針先にかけてのひねりも、間口A洞穴の2点を除き認められない。

青銅製の釣針は毘沙門B洞穴の1点のみで、軸長は2cm、軸頂部は脹らんで糸掛けとなっている。

組合せ釣針

弥生時代以降の組合せ釣針は、形態上4つのタイプに分けることができる。

Aタイプ、柄の部分を用意の中手（または中足）骨や歯鯨類の骨を材料に、長さ7.5～9.5cm、幅1.1～1.5cm、厚さ0.7～0.9cmほどに削り、柄の頂部の両面から直径0.5cm前後の孔を斜めにうち釣糸を結ぶあな孔とし、柄の先端部には、直径0.4cm前後、深さ1.8～2.5cmのU字形の孔をうち、この孔に軸頂部を細くし、糸掛けのない鉄製または、鹿角製の釣針を植え込んだもの。この針先は有鐵のものと無鐵のものがある。現在の漁師はこのような組合せ釣針を「ツノ」または、「イナダノツノ」とよび総体をイカに似せるために、フグの腹皮や羽毛を巻きつけ曳き釣に用いている。主な対象魚は海の上層を泳ぐイナダ（ブリ）・サバ・アジと海底にま棲息するヒラメなどで、大型のものはカツオに用いる。

Bタイプ、Aタイプに似るが柄が鹿角製の丸い棒状であり、鹿角製の釣針を植え込み接着剤で固定したもの。

Cタイプ、丸い棒状の柄に差し込んだ鹿角製の釣針を目釘で止めたもの。

Dタイプ、Bタイプに似るが丸い棒状の柄に、鉄製釣針を植え込んだもの。

いずれも縄文時代には見られないタイプの組合せ釣針であり、このうち三浦半島の弥生時代から古墳時代前期にかけての遺跡からは、A・Cタイプのものが出土している。

Aタイプ、毘沙門B洞穴（鉄製釣針1、久ヶ原期 図4-5）、大浦山洞穴（柄1、久ヶ原・五領期 図4-8）、鉞切貝塚B地点（柄1、五領期）が出土。毘沙門B洞穴の鉄製釣針の針先は、内外に鐵があるように三角形をしている。大浦山洞穴の柄は焼かれており、その後、全体が丹念に磨かれ光沢がある。

Cタイプ、向ヶ崎B洞穴（弥生後期 図4-7）で釣針の軸のみが出土。鹿角製（？）の軸には両方向から目釘の孔が[あ](#)けられている。

古墳時代後期～平安時代

この時代の単式釣針の報告例は、毘沙門B洞穴の青銅製釣針（平安=国分期 図4-14）1点のみ。この釣針は無鐵で、軸頂部はあ早蕨状をなし、まるまった部分に麻紐が残り。真直な軸の上半部には細い麻がゆるく巻きつけられており、この部分に鳥の羽などを下向きに結びつけて、擬餌針として使用したものと思われる。

組合せ釣針は柄と釣針を合わせて30点出土している。

Aタイプ、鉞切貝塚B地点（柄1、五領・鬼高期）、鳥ヶ崎横穴（柄と鉄製釣針10、古墳後期 図4-9）、江奈横穴（鉄製釣針3、古墳後期 図4-11）、浜諸磯遺跡（柄6、古墳後期～平安 図4-13）、内原遺跡C地区（鉄製釣針1、奈良？）、芦名浜遺跡（鉄製釣針2、古墳後期 柄1、古墳後期～平安）が出土。釣針はいずれも鉄製であるが、浜諸磯遺跡出土の1点には柄の孔の中に鹿角が残っているものがあり、鹿角製の釣針もあったものとも思われる。針先は針先が残るもののみ

るかぎり、いずれも無鏝である。軸長は芦名浜遺跡のもので6.7cm、江奈横穴のもので7.1cmと、弥生時代後期の毘沙門B洞穴の4.1cmと比べて長い。柄は鉞切貝塚B地点のものは齒鯨類の骨を使用しているが、浜諸磯遺跡のものは6点ともウシの中手（または中足）骨を使用している。このうち2点は弥生時代～古墳時代前期の大浦山洞穴のものと同様に骨を焼いた後、全体が丹念に磨かれ光沢がある。

Bタイプ、海外第1洞穴で1（柄と釣針、古墳後期 図4-12）出土。この釣針は洞穴内の墳墓から副葬品として出土したものである。丸い棒状の柄に鹿角製の釣針を植え込んだものである。無鏝であるが、曲りの部分に小突起状のものがある。

Cタイプ、鉞切貝塚B地点（柄1、五領・鬼高期）、鴨居八幡社貝塚（柄と釣針1、鬼高期 図4-10）、海外第1洞穴（柄2、古墳後期）が出土。鴨居八幡社貝塚のものは、鹿角製の柄に鹿角製の釣針を差し込み、柄にあけられた2つの孔より目釘を差し込んでとめたものである。釣針は針先が欠損しているため、鏝があったかどうかは不明である。腰曲りは直角に近い角度で曲っている。腰曲りの下にはBタイプの海外第1洞穴のものと同様な小突起がある。海外第1洞穴の2点は洞穴内の墳墓から出土しており、そのうち1点は赤い丹が塗られている。

Dタイプ、蓼原遺跡（柄1、古墳後期～平安）と鉞切貝塚A地点（柄1、鬼高期 図4-6）が出土。蓼原遺跡のものは破損した柄に鉄製釣針の一部が入っている。鉞切貝塚A地点のものは鉄製釣針の残りは認められないが、形態は蓼原遺跡のものと同様である。

鎌倉時代～室町（戦国）時代

この時代の釣針は蓼原東遺跡（14・15世紀）で単式釣針と組合せ釣針が出土している^{#3}。組合せ釣針が多く、筆者が見たかぎりでは、鏝の無いもので形態的には古墳時代のものと同様である。

3 網錘

弥生時代～古墳時代前期

この時代、網の^{おもり}錘として使われたものには土^{すい}錘と石錘と角錘がある。

弥生時代に入ると縄文時代に多くみられた土器片を利用した土錘は全くみられなくなり、かわって中心部に縄を通すための孔をあけた管状や球形の土錘が出現する。管状の土錘は、俵形・細長俵形・円筒形の3つのタイプに大きく分けることができる。

管状土錘のうち俵形土錘は、上ノ台遺跡3（古墳前期 図4-22）、伝福寺裏遺跡5（五領期）^{#4}、間口A洞穴（弥生時代）、鷺ヶ島台遺跡（五領期）、大木根東遺跡1（久ヶ原期？）が出土。細長俵形土錘は上ノ台遺跡1（弥生後期～古墳前期）、伝福寺裏遺跡11（五領期）、大木根東遺跡1（久ヶ原期？）で出土。円筒形土錘は上ノ台遺跡1（弥生後期 図4-18）・2（弥生後期～古墳前期）・5（古墳前期 図4-20）、伝福寺裏遺跡25（五領期）、赤坂遺跡1（久ヶ原期）、内原遺跡B地区2

(五領期)、同E地区3(古墳前期?)、同I地区(古墳前期)が出土。

球形土錘は上ノ台遺跡1(弥生後期 図4-17)・1(弥生後期~古墳前期)・6(古墳前期 図4-19)、間口A洞穴1(弥生時代)、内原遺跡B地区1(五領期)が出土。

その他、錘の機能を持つと思われる有孔棒状土製品が上ノ台遺跡2(古墳前期 図4-21)で出土。この形態の土錘は今のところ他の遺跡からは出土していない。

土錘の重量は上ノ台遺跡のもので、球形のものは50~70gのものが多く、俵形や細長俵形のものは10~30g。円筒形のものには大小さまざまで、小は30g前後、大は100gをこえるものもある。

石錘は形態的に大きく分けると、縄文時代からの伝統をひく^ね縲の両端を打ち欠いて縄掛けとした切目石錘と、弥生時代駿河湾に分布の中心を持つ有頭石錘とがある。さらに有頭石錘は分銅形と有溝のものがある。

切目石錘は雨崎洞穴1(図4-15)、内原遺跡B地区5(五領期)が出土。有頭石錘は大浦山洞穴1(久ヶ原・五領期)・長井台地遺跡群1(弥生後期~古墳前期 図4-27)、内原遺跡B地区1(五領期 図4-23)が出土。大浦山洞穴と長井台地遺跡群のものは分銅型であり、内原遺跡B地区のものは有溝のものである。3点とも有頭石錘としては小さなもので重量は500g以下である。

縄文時代の切目石錘の多くのものは、長軸の両端部を打ち欠いて縄掛けとしたものが多い。雨崎洞穴のものは短軸の両端部を打ち欠いたものではあるが、縄文時代からの伝統を引く石錘といっよいであろう。なお、重量は100gである。

その他、内原遺跡I地区(古墳前期)で大型の石錘が出土している。

角錘は間口A洞穴から長さ3cmほどの鹿角製のものが1点出土。両端部を削り脹らみをつけて縄掛け部としたものである。

古墳時代後期~平安時代

この時代になると^{もろ}銚やヤスなどの他の漁撈具を出土する生活址としての遺跡が少なくなるなかで、網錘を出土する遺跡数とその出土量は多くなる。この時代、角錘はみられないが土錘と石錘が出土している。土錘は管状土錘と球形土錘が出土している。管状土錘は俵形、細長俵形、円筒形の3タイプに分けられ、形態や重量は弥生時代~古墳時代前期のものと大きくはかわらない。

俵形土錘は鉞切貝塚A地点3(鬼高期)、同C地点2(古墳後期)、蓼原遺跡1(8世紀)・1(古墳後期~平安)、佐原泉遺跡1(古墳後期)、内原遺跡E地区1(平安)、芦名浜遺跡4(古墳後期~平安)が出土。細長俵形土錘は鉞切貝塚B地点13(五領・鬼高期)・同C地点3(古墳後期 図4-28)、蓼原遺跡1(8世紀)・2(奈良~平安)、神明谷戸遺跡8(古墳後期~平安)、中馬堀遺跡10(古墳後期)、佐原泉遺跡2(古墳後期)、台ノ坂遺跡4(鬼高期)が出土。円筒形土錘は鉞切貝塚A地点1(鬼高期)、同B地点5(五領・鬼高期)、同C地点15(古墳後期)、走水貝塚(時期不明)、蓼原遺跡2(8世紀)、佐原泉遺跡2(古墳後期 図4-24)、芦名浜遺跡2(古墳後期~平安)が出土。

球形土錘は鉞切貝塚A地点38(鬼高期)、同B地点4(五領・鬼高期)、同C地点3(古墳後期)、蓼原遺跡1(古墳後期~平安)、佐原泉遺跡3(古墳後期 図4-26)、内原遺跡E地区1(古墳後

期?)・1(平安?),内原遺跡F地区1(時期不明)が出土。

石錘は中馬堀遺跡で平安時代の大型石錘が1点出土。約3分の1が欠損しているが現重量は6.71kgで、中央部に横方向の^{まぐ}挟り込みがある。重さなどから考えて、刺網や建網などの^{いかり}碇または、舟の碇として使われたものと思われる。

鎌倉～室町(戦国)時代

遺跡の数も11と他の時代と比べて少ないためか、網錘の出土量も少ない。また、出土層の関係からそれ以降のものと区別がつきにくいということもある。どの遺跡も出土しているものは管状土錘のみである。

俵形土錘は蓼原東遺跡(14・15世紀)、片谷の浜遺跡2(室町時代)で出土。細長俵形土錘は八幡神社遺跡群久里浜中学校地点4(14世紀 図4-29)が出土。円筒形土錘は八幡神社遺跡群八幡神社前地点3(13・14世紀 図4-30)が出土。その他、中馬堀遺跡・熊野神社下遺跡でも土錘が出土している。

4 回転銚頭

三浦半島の弥生時代以降の遺跡から出土する銚頭は回転銚頭といわれるものである。銚頭に柄を装着するソケットをもち、これに柄の先端を挿入し、銚頭に綱を結ぶための孔または、溝を有する。

弥生時代～古墳時代前期

現在まで9点の回転銚頭が報告されている。金子・忍沢の分類^{#5)}でいくと、基体長型(基体部と尾部の比が、1対3かそれ以上となるもの)と、茎溝付加型(先端部に^{やじり}鎌 装着用の茎溝を有するもの)の2つのタイプが出土している。いずれも鹿角製である。

基体長型は雨崎洞穴1、間口洞穴1(久ヶ原期 図4-32)、大浦山洞穴2(宮ノ台期 図4-31)が出土。茎溝付加型は間口洞穴3(久ヶ原・弥生町期 図4-33・34)、毘沙門B洞穴1(久ヶ原・弥生町期 図4-35)、毘沙門C洞穴1(久ヶ原期)が出土。また、この回転銚頭に装着したことも考えられる基部に穿孔のある鎌が、次の洞穴で出土している。雨崎洞穴(牙製鎌1)、間口洞穴(アワビ製貝鎌1、宮ノ台期、サメ歯製鎌1・アワビ製貝鎌2・粘板岩製鎌1 弥生後期)、海外第1洞穴(サメ歯製鎌1、骨鎌1)、

古墳時代後期～平安時代

鴨居八幡社貝塚から茎溝付加型の鹿角製回転銚頭が最近出土している^{#6)}。回転銚頭が古墳時代後期まで確実に使用されていることがわかる。

鎌倉時代～室町（戦国）時代

中世では鎌倉市内の千葉地東遺跡など、水産物の消費地としての遺跡から少なからぬ魚や海獣の遺存体が出土している。^{※7)}イルカなどが多いことから、回転銚頭も使用されていたと思われるが、現在のところ水産物の生産地としての三浦半島の中世の貝塚からは、回転銚頭は出土していない。さらにイルカやマグロの遺存体も出土していない。

5 アワビオコシ

弥生時代～古墳時代前期

現在まで16点のアワビオコシが報告されている。金子・忍沢の分類でいくと、A鹿角の第3枝切のタイプ、B短型刃部のみのタイプの他、C鹿角の先端のみを削ったタイプ、D、Aをさらに整し先端をへら状にしたタイプが出土している。

Aタイプは間口A洞穴1（宮ノ台期、報告者は「尖頭形角器」としている）、毘沙門C洞穴1（久ヶ原期）、大浦山洞穴1（宮ノ台期）が出土、Bタイプ 毘沙門C洞穴1（久ヶ原期 図4-38）のみ。Cタイプ 間口A洞穴4？（弥生後期）。毘沙門C洞穴2（図4-37）、海外第1洞穴4が出土。Dタイプ 雨崎洞穴1（図4-36）のみ。その他、間口A洞穴で破片のためA・Bどちらのタイプに入るか不明のものが1点（宮ノ台期）がある。これらの多くのものには鹿角を斜めに切断した面や、テコの支点にあたる部分の表面（自然面）に、擦痕や押し潰された痕が認められる。岩に密着したアワビなどを剥がす際にできたものと思われる。アワビオコシは現在のところ、古墳後期以降の遺跡からは出土していない。

6 まとめ

弥生時代～古墳時代前期

三浦半島の弥生時代の単式釣針は、一部に針先が内湾するなど縄文時代の形態を残すものもあるが、全体的には猿島洞穴のものに代表されるように、軸が真直でふところ幅に対して長い、縄文時代には見られない形態となる。この形態のちがいは、製作方法や鹿角の使用部位のちがいを考えた。

弥生時代の単式釣針の製作過程を示すと思われる未製品が、雨崎洞穴と海外第1洞穴から出土している。細かな点については正式の報告書によらねばならないが、大まかには次のように製作されたと考える。①鹿角の幹を長さ10cmほどの長さで輪切りにする。②その後、輪切りにした幹を厚さ1～1.5cmで縦に割る。③縦に割ったものを表・裏・左右側面を金属製刃物で板状に削る。④板状に

したものの中央部を縦に2～3ヶ所、直径3～5mmの孔を両方向からあける。⑤孔の部分を金属製刃物で削り、単式釣針のふところとする。さらには、海外第1洞穴の貝層の土壌サンプルの中からは、厚さ1mm以下で幅5～6mmの金属製刃物による鹿角の削り層くづが多数出土している。

久ヶ原・五領期以降になると毘沙門B洞穴にみられるように、金属製の釣針も使用されるようになる。またこの時期に大浦山洞穴と毘沙門B洞穴にみられるような、ウシの中手（または中足）骨を柄と鉄製釣針を組合せた、組合せ釣針が出現する。

網錘用の土錘は縄文時代は土器片の両端に縄掛け用の刻目をつけたものであったが、弥生時代に入ってから1点も出土していない。三浦半島で管状や球形の土錘が出現するのは弥生時代の久ヶ原期である。しかし、その出土量は非常に少ない。古墳時代前期（五領期）になって土錘は増えるが、古墳時代後期以降と比べるとはるかに少ない。

土錘を出土した遺跡をみると、海ぞいの砂丘上の集落址や台地上の集落址である。釣針や鉾などを多く出土した洞穴遺跡からは、間口A洞穴を除いて出土していない。砂丘上や台地上の集落址と洞穴遺跡とでは漁法の大きなちがいがあるのであろうか。

有頭石錘は弥生時代後期になって出現したものであり、駿河湾岸地域の影響によるものと思われる。

雨崎洞穴出土の切目石錘は、網錘だけでなく釣用の錘とも考えられる。100gという重量は釣用の錘としては重すぎるように思えるが、マダイの漁場である浦賀水道は流れが速いことと、当時の釣糸は植物繊維を編んだ太いものとする、釣り用の錘としてもよいのではないかと思う。

回転銚頭の発生は現在のところ三陸海岸・仙台湾岸の縄文時代後期に求めることができる。その後、南へ広がり三浦半島では弥生時代中期（宮ノ台期）に出現する。縄文時代後期、三浦半島を含めた南関東で盛んに使用された銚頭（柄の先端に銚頭を装着するためのソケットをつくり、銚頭の基部は柄にさし込むのに適した形にしたもの）にかわって、回転銚が使われたことと思われる。縄文時代後期と弥生時代から古墳時代前期の三浦半島の漁撈の対象となった魚や海獣を比べてみると、弥生時代に入ってカツオを多く捕るようになった以外、大きくかわるところがない。回転銚頭は銚頭が獲物に命中した際、回転してぬけなくなる機能があるため、それまでの銚頭以上に、サメ・カジキ・マグロ・イルカなどを捕るために効果をあげたものと思われる。

アワビオコシは東北地方南部のいわき地区に縄文時代中期後半に出現し、晩期まで普遍的にみられる。三浦半島では弥生時代中期（宮ノ台期）に出現する。機能的にも雨崎洞穴のもののように発達し、縄文時代後期にはあまり多く採られなかったアワビを、潜水しながら採るための道具として大いに使用されたものと思う。しかし、古墳時代後期以降アワビを多く出土した浜諸磯遺跡を含めて、アワビオコシは1点も出土していない。

このようにしてみると宮ノ台期は釣針による釣漁法・回転銚による刺突漁法とアワビオコシを使用した潜水漁法といったように、個人的色彩が強く、大量に獲物を捕るというものではなかった。久ヶ原期に入って網錘を使用した網が出現する。土錘や石錘などからみて、一度に大量に獲物を捕るような網漁法がそれまでの漁法に加えて行なわれるようになった。網漁法の管状や球形の土錘は、

時期的な分布からみて紀伊半島・東海地方^{注1)}から北上して三浦半島に入ってきたものと思われる。

さらに、漁撈具の伝来の様子をみると、宮ノ台期までに回転銚・アワビオコシが東北地方から入り、それと、ほぼ同時に金属製刃物を使った骨角製漁撈具の製作法が西から伝来する。久ヶ原～五領期にかけて金属製釣針・組合せ釣針・網錘が西から伝来し、三浦半島の弥生時代の漁撈の形をつくったといえる。

古墳時代後期～平安時代

この時代の遺跡からは、軸頂部に糸掛けのある確実な単式釣針の出土例は現在のところ毘沙門B洞の青銅製釣針を除いて無い。これに対して、それ以前と比べて組合せ釣針は出土数が多くなる。単式釣針から組合せ釣針を使った曳き釣へと、漁法も大きく変化していったようである。これと同時に、カツオのような外洋性の魚骨も目立つようになる。また、釣針の金属化も進んだ。組合せ釣針の柄の材料は、ウシの手足（または中足）骨を多く使用しており、この頃、三浦半島にウシ・ウマが広まりつつあることと、何らかの関連があるように思える。柄自体も、以前のものと同様に擬餌針としての効果を高めるために、海中で光にキラキラ反射するように、一度骨を焼き、丹念に磨き光沢をつけるなどの工夫がみられる。

組合せ釣針による曳き釣が発展したと同時に、土錘の出土量が多いことや大型石錘の出現などからみて、獲物を大量に捕らえるための網漁も大きく発展した時代といえる。

現在のところ、この時代の回転銚頭などの漁撈具の出土例は非常に少ないため、漁撈の中心は曳き釣の釣漁法と網漁法、そして漁撈具としては残っていないが貝の採集といえる。

鎌倉時代～室町（戦国）時代

この時代の漁撈も、平安時代までと同様に曳き釣を中心とした釣漁法と網漁法、そして貝の採集が中心であった。しかし、それまでの貝塚からは魚骨が多く出土しているが、この時代の宮ノ谷貝塚・蓼原東貝塚をみるかぎりでは、魚骨や海獣の骨の出土は非常に稀であり、貝の捨て場と魚骨や海獣の骨の捨て場は異なるのかもしれない。または、魚などの加工技術や流通の問題によるのかもしれない。

本論を書くにあたって金子浩昌先生をはじめ、飯島重一、白井敦、稲村繁、大塚真弘、塚田明治、中三川昇、西川修一、野内秀明の諸氏にお世話になりました。ここに厚くお礼を申しあげます。

注1 若林勝邦「石器時代の釣鉤」『東京人類学会雑誌』7巻77号 1892年

注2 逗子市での池子遺跡群出土品展示会を見てのものである

注3 中三川昇氏の御教示による。

注4 大塚真弘氏の御教示による。

注5 金子浩昌・忍沢成視『骨角期の研究』縄文編I 鹿友社 1986年

注6 野内秀明氏の御教示による。

注7 金子浩昌「中世遺跡における動物遺体―鎌倉市内遺跡の調査例を中心として―」『考古学と関連科学』鎌木義昌先生古稀記念論文集刊行会 1988年

注8 『海の生産用具』埋蔵文化財研究会第19回研究集会資料集 1986年

引用文献

赤星直忠「海蝕洞窟」『神奈川県文化財調査報告』20 1953年

赤星直忠「雨崎洞穴調査概報」『横須賀考古学会年報』13・14 1969年

赤星直忠「大浦山洞穴調査概報」『横須賀考古学会年報』8・9 1963・1964年

西ノ浜海蝕洞穴発掘調査団編『三浦市西ノ浜洞穴』神奈川県土木部 1983年

海外洞穴遺跡発掘調査団「三浦市海外洞穴遺跡の概要」『横須賀考古学会年報』26 1983年

牛沢百合子「なたぎり遺跡出土の骨角器」『桂町遺跡群・なたぎり遺跡発掘調査報告書』相武古代研究会 1979年

赤星直忠「金石併用時代の漁民」『漁民と対馬』九学会連合 1952年

赤星直忠「骨製品を発見す」『考古学雑誌』17-1 1927年

赤星直忠『三浦市江奈横穴群』横須賀考古学会 1976年

浜諸磯遺跡調査団編「浜諸磯遺跡」『三浦市文化財調査報告書』1 1991年

横須賀市教育委員会編「長井町内原遺跡」『横須賀市文化財調査報告書』9 1982年

蓼原遺跡調査団編「蓼原」『横須賀市文化財調査報告書』13 1987年

赤星直忠「横須賀市なたぎり遺跡」『横須賀市史』別冊 1954年

神沢勇一「間口洞穴遺跡(1)~(3)」『神奈川県立博物館発掘調査報告書』6~9 1972~1975年

上ノ台遺跡調査団編「鴨居上ノ台遺跡」『横須賀市文化財調査報告書』8 1981年

大木根東遺跡調査団編『大木根東遺跡』大木根東調査団 1992年

赤坂遺跡調査団編『三浦市赤坂遺跡』三浦市教育委員会 1977年

横須賀市教育委員会編「長井台地遺跡群」『横須賀市文化財調査報告書』20 1990年

鉞切遺跡調査団編「鉞切遺跡-C・D地点の調査」『横須賀市文化財調査報告書』12 1986年

泉遺跡調査団編『佐原泉遺跡』泉遺跡調査団 1989年

横須賀市教育委員会編「神明谷戸遺跡II」『横須賀市文化財調査報告書』22 1991年

横須賀市教育委員会編「中馬堀遺跡」『横須賀市埋蔵文化財調査報告書』1 1992年

台の坂遺跡調査団編「台の坂遺跡」『横須賀市文化財調査報告書』24 1992年

赤星直忠「土製錘」『考古資料』1 1956年

横須賀市教育委員会編「埋蔵文化財発掘調査概報集I」『横須賀市文化財調査報告書』26 1992年

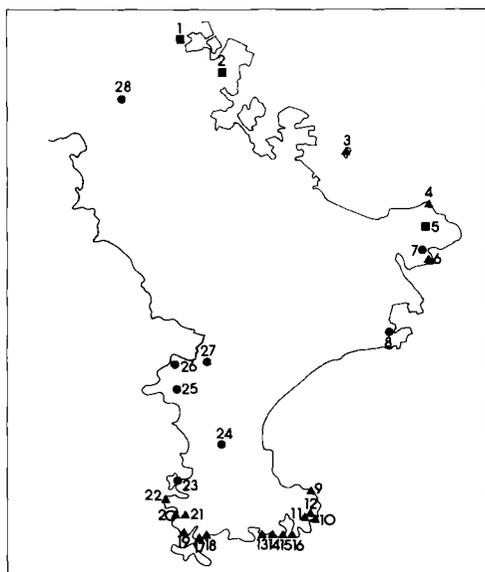
横須賀市教育委員会編「八幡神社遺跡群」『横須賀市文化財調査報告書』21 1991年

釵持輝久「三浦半島における弥生時代の漁撈について」『物質文化』19 1972年

横須賀考古学会編『三浦半島の海蝕洞穴遺跡』横須賀考古学会 1984年

釘持輝久・西本豊弘「狩猟・漁撈対象物」『季刊考古学』14 1986年

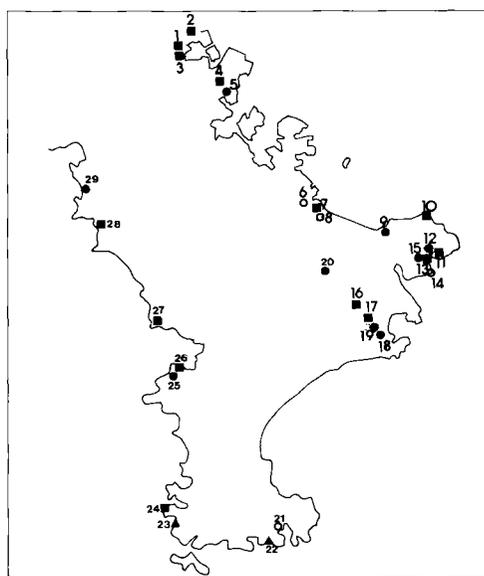
神澤勇一「三浦半島の弥生時代漁具」『季刊考古学』25 1988年



- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 金沢高校内貝塚 | 久々原～弥生町 |
| 2. 鉾切貝塚B地点 | 五領 |
| 3. 猿島洞穴 | 久々原～弥生町 |
| 4. 走水洞穴 | 宮ノ台 |
| 5. 鴨居花立貝塚 | 五領? |
| 6. 鳥ヶ崎洞穴 | 久々原 |
| 7. 上ノ台遺跡 | 宮ノ台～五領 |
| 8. 伝福寺裏遺跡 | 五領 |
| 9. 雨崎洞穴 | 須和田～五領 |
| 10. 大浦山洞穴 | 宮ノ台～五領 |
| 11. 間口A洞穴 | 宮ノ台～五領 |
| 12. // B洞穴 | 久々原～五領 |
| 13. 毘沙門A洞穴 | 久々原 |
| 14. // B洞穴 | 久々原～弥生町 |
| 15. // C洞穴 | 久々原 |
| 16. // D洞穴 | 弥生町 |
| 17. 向ヶ崎A洞穴 | 久々原～五領 |
| 18. // B洞穴 | 久々原 |
| 19. 西ノ浜洞穴 | 宮ノ台～五領 |
| 20. 海外1号洞穴 | 宮ノ台～五領 |
| 21. 海外3号洞穴 | 五領 |
| 22. 諸磯洞穴 | 久々原 |
| 23. 鶴ヶ島台遺跡 | 五領 |
| 24. 赤坂遺跡 | 宮ノ台～久々原 |
| 25. 長井台地遺跡 | 弥生後期～古墳前期 |
| 26. 内原遺跡B地区 | 五領 |
| 27. 大木根東遺跡 | 久々原? |
| 28. 池子No.1A遺跡 | 宮ノ台 |

第1図 弥生～古墳時代前期の漁撈関係の遺物を出土した遺跡

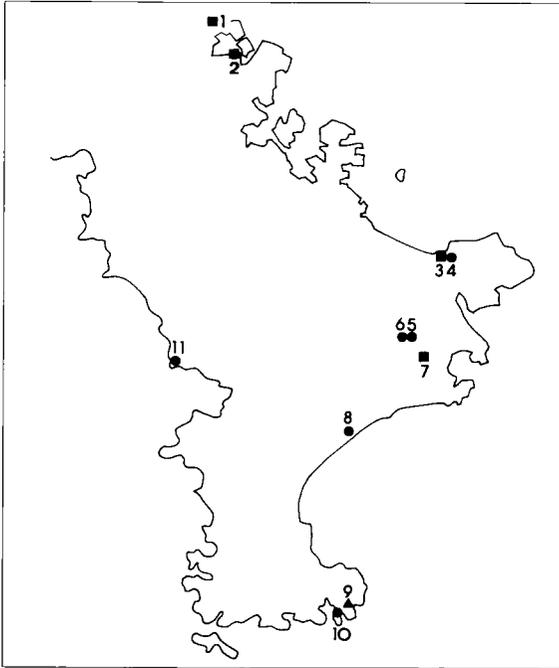
■貝塚 ▲洞穴 ●集落



- | | |
|---------------|---------|
| 1. 旧金沢署貝塚 | 古墳後期 |
| 2. 称名寺H貝塚 | 古墳後期? |
| 3. 玉助荘貝塚 | 古墳後期～平安 |
| 4. 鉾切貝塚A～E地点 | 古墳後期 |
| 5. 日向遺跡 | 古墳後期～平安 |
| 6. 高山横穴 | 古墳後期 |
| 7. 山崎貝塚 | - |
| 8. 山崎横穴 | 古墳後期 |
| 9. 中馬塚遺跡 | 古墳後期 |
| 10. 走水貝塚 | 古墳後期 |
| 11. 腰越貝塚 | 古墳後期 |
| 12. 小荷谷遺跡 | 古墳後期 |
| 13. 鴨居八幡社貝塚 | 古墳後期 |
| 14. 鳥ヶ崎横穴 | 古墳後期 |
| 15. 上ノ台遺跡 | 古墳後期 |
| 16. 久村貝塚 | 古墳後期? |
| 17. 夢原貝塚 | 古墳後期～平安 |
| 18. 神明谷戸遺跡 | 古墳後期～平安 |
| 19. 台ノ坂遺跡 | 古墳後期 |
| 20. 佐原泉遺跡 | 古墳後期 |
| 21. 江奈横穴 | 古墳後期 |
| 22. 毘沙門B洞穴 | 平安 |
| 23. 海外第1洞穴 | 古墳後期 |
| 24. 浜諸磯遺跡 | 古墳後期～平安 |
| 25. 内原遺跡 | 奈良～平安 |
| 26. 小舞原遺跡 | 古墳? |
| 27. 芦名浜貝塚 | 古墳後期～平安 |
| 28. 葉山御用邸貝塚 | 古墳後期 |
| 29. 堀内児童公園内遺跡 | 古墳後期～奈良 |

第2図 古墳時代後期～平安時代の漁撈関係の遺物を出土した遺跡

■貝塚 ▲洞穴 ●集落 ○横穴



- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 称名寺 F 貝塚 | 中世 |
| 2. 室ノ木 貝塚 | 中世 |
| 3. 宮ノ谷 貝塚 | 15世紀 |
| 4. 中馬堀 遺跡 | 中世 |
| 5. 八幡神社遺跡群(神社前) | 13・14世紀 |
| 6. // (久里浜中学) | 14世紀後半 |
| 7. 藤原東 貝塚 | 14・15世紀 |
| 8. 熊野神社下遺跡 | 中世 |
| 9. 間口 A 洞穴 | 鎌倉 |
| 10. 片谷の浜 遺跡 | 室町 |
| 11. 芦名浜 遺跡 | 鎌倉 |

第3図 鎌倉～室町(戦国)時代の漁撈関係の遺物を出土した遺跡

■貝塚 ▲洞穴 ●集落

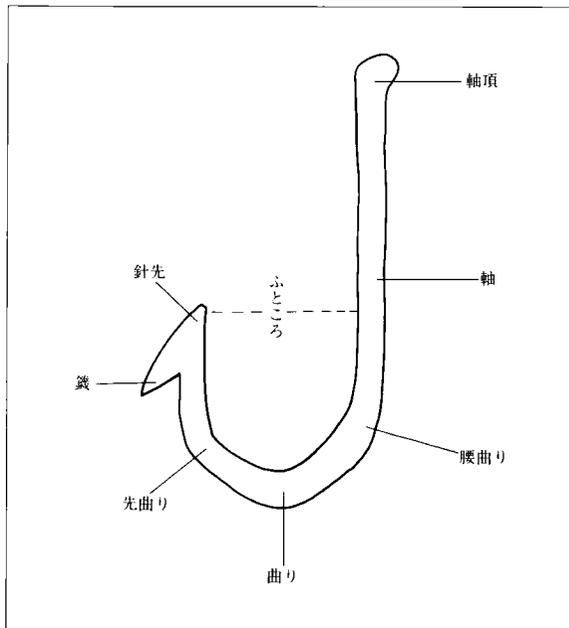
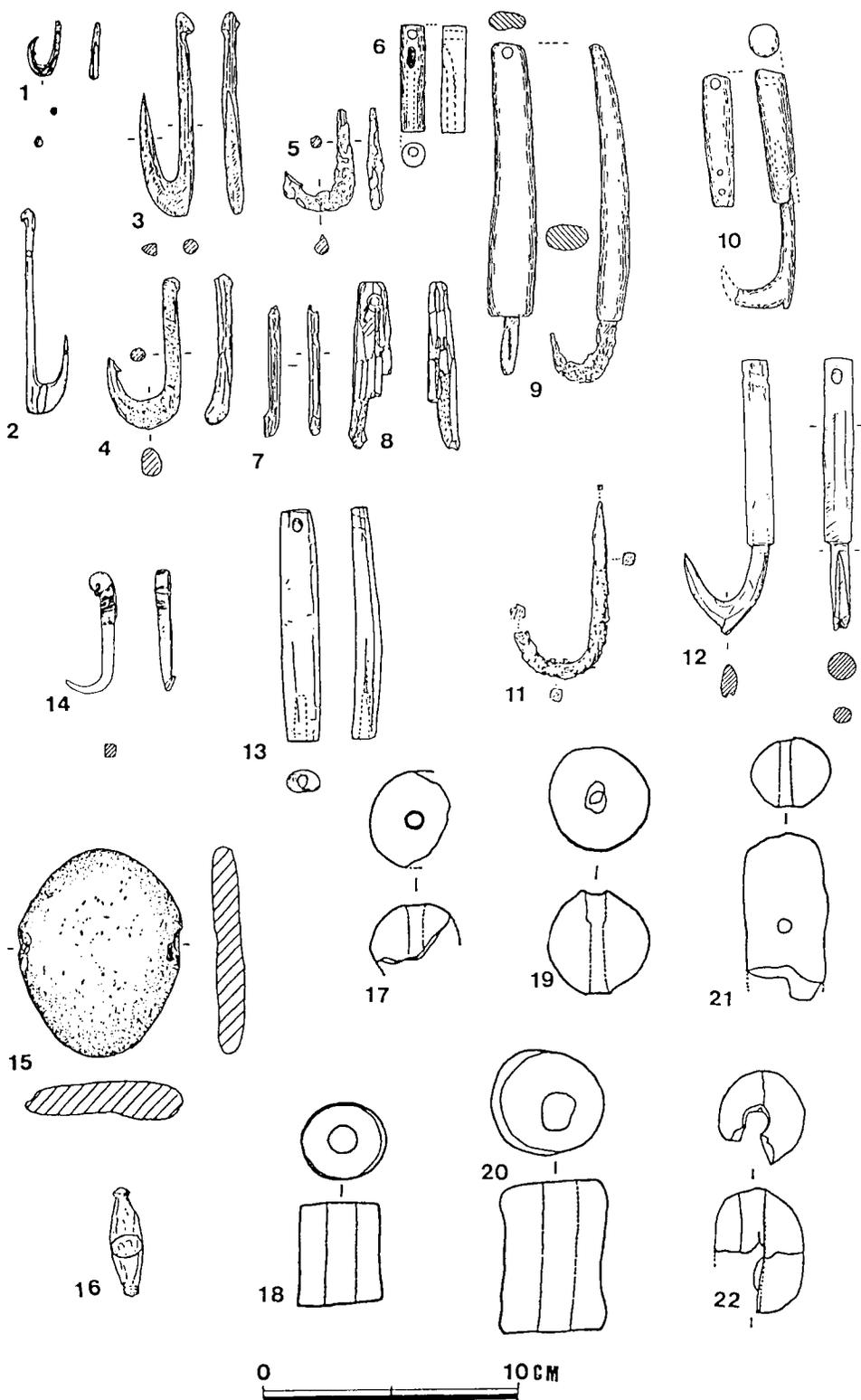
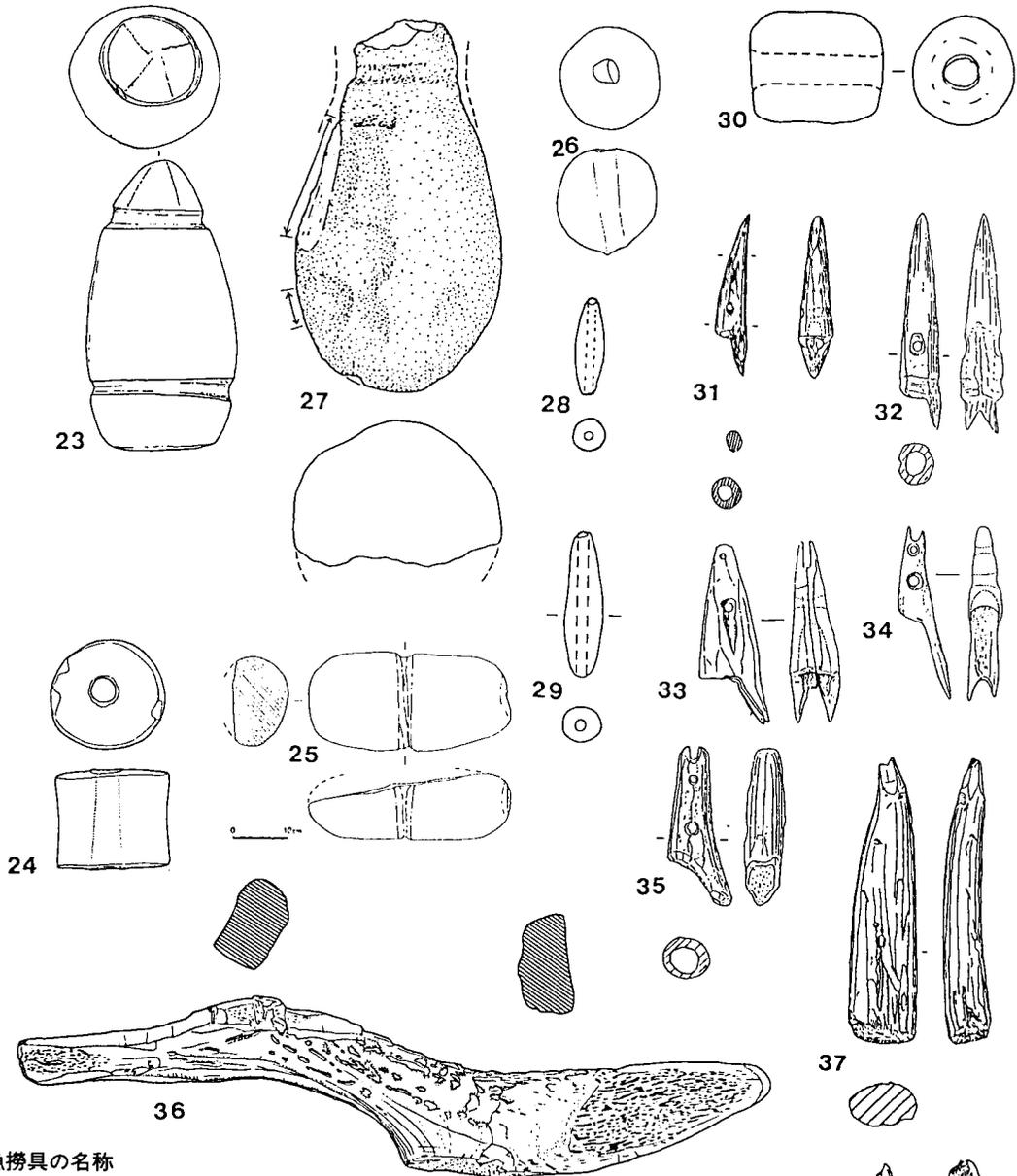


図5 釣針の各部の名称

第4図 三浦半島出土の弥生時代から室町(戦国)時代の漁撈具





漁撈具の名称

単式釣針 = 1 ~ 4 · 14, 組合せ釣針 = 5 ~ 13, 切目石錘 = 15, 角錘 = 16, 土錘 = 17 ~ 22 · 24 · 26 · 28 ~ 30, 大型石錘 = 25, 有頭石錘 = 23 · 27, 回転鈎頭 = 31 ~ 35, アワビオコシ = 36 ~ 38,

漁撈具の出土地点遺跡名称

(1 · 8 · 31 : 大浦山洞穴, 2 · 4 · 16 · 32 ~ 34 : 間口A洞穴, 3 : 猿島洞穴, 5 · 14 · 35 : 毘沙門B洞穴, 6 : 鉞切貝塚A地点, 7 : 向ヶ崎B洞穴, 9 : 鳥ヶ崎横穴, 10 : 鴨居八幡社貝塚, 11 : 江奈横穴, 12 : 海外第1洞穴, 13 : 浜諸磯遺跡, 15 · 36 : 雨崎洞穴, 17 ~ 22 : 上ノ台遺跡, 23 : 内原遺跡B地区, 24 · 26 : 佐原泉遺跡, 25 : 中馬堀遺跡, 27 : 長井台地遺跡群, 28 : 鉞切貝塚C地点, 29 : 八幡神社遺跡群久里浜中学校地点, 30 : 八幡神社遺跡群八幡神社地点, 37 · 38 : 毘沙門C洞穴) * 25のみ縮尺別

IV 參考資料

1 小坪漁業統計資料

漁業協同組合関係年度別推移表

	登録漁船 (地元船)	漁獲量 (t)			ワカメ (t)		組合員数 (人)
		A+B(属地)	A(属人)	B(外来)	(天然)	(養殖)	
昭和41年	104	429	資料なし		48	資料なし	106
昭和42年	119	412	資料なし		51	資料なし	106
昭和43年	72	239	資料なし		33	資料なし	67
昭和44年	92	259	資料なし		34	資料なし	37
昭和45年	95	270	資料なし		9	0	61
昭和46年	68	107	資料なし		30	0	59
昭和47年	82	324	資料なし		50	0	57
昭和48年	79	289	資料なし		90	0	56
昭和49年	82	318	資料なし		93	0	56
昭和50年	82	333	資料なし		96	29	56
昭和51年	80	285	資料なし		72	20	56
昭和52年	84	369	資料なし		40	36	56
昭和53年	78	333	資料なし		63	36	50
昭和54年	71	354	資料なし		96	20	48
昭和55年	89	1166	534	632	145	48	45
昭和56年	68	930	500	430	115	32	46
昭和57年	65	635	505	130	36	6	46
昭和58年	62	425	372	53	27	29	46
昭和59年	60	594	546	48	151	22	45
昭和60年	63	462	416	46	43	38	45
昭和61年	64	418	389	29	90	33	46
昭和62年	62	330	302	28	35	44	46
昭和63年	63	288	244	44	52	44	51
平成元年	65	466	398	68	40	27	50
平成2年	65	366	314	52	35	15	50
平成3年	57	202	164	38	23	32	46

年別魚種別陸揚量 (t)

0=500kg以下、- =漁獲なし

	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年
あじ	6	2	12	17	14
あまだい	1	1	1	1	1
いさき	0	1	0	0	0
いわし	121	57	182	173	7
かつお	-	6	-	8	-
かます	5	2	7	9	7
かれい	0	0	0	0	0
きす	1	1	0	1	0
ぐち	1	0	0	0	1
このしろ	1	13	32	22	16
さば	28	15	7	2	2
さわら	-	0	0	-	-
しいら	3	5	4	3	5
しらす	12	13	74	30	33
すずき	1	3	3	2	8
そうだかつお	1	1	4	2	3
たい	0	0	0	0	0
たちうお	1	3	3	2	8
とびうお	0	0	-	1	1
はぎ	3	4	1	5	4
ひらめ	1	0	0	2	2
ぶり	0	1	1	0	0
ほうぼう	0	0	0	0	0
ほら	13	20	24	10	7
むつ	-	0	0	0	-
その他の魚類	40	11	10	6	7
あわび	1	1	1	1	1
さぎえ	2	23	26	7	5
とこぶし	0	0	0	0	0
その他の貝類	0	-	0	0	0
いか	5	5	4	4	9
えび	0	0	0	0	0
かに	0	0	0	0	-
たこ	4	3	3	7	6
なまこ	0	1	0	0	0
わかめ	79	96	67	50	55
その他の藻類	-	-	-	1	-
総属地陸揚量	330	288	466	366	202

市民生活部地域振興課資料より (港勢調査による)

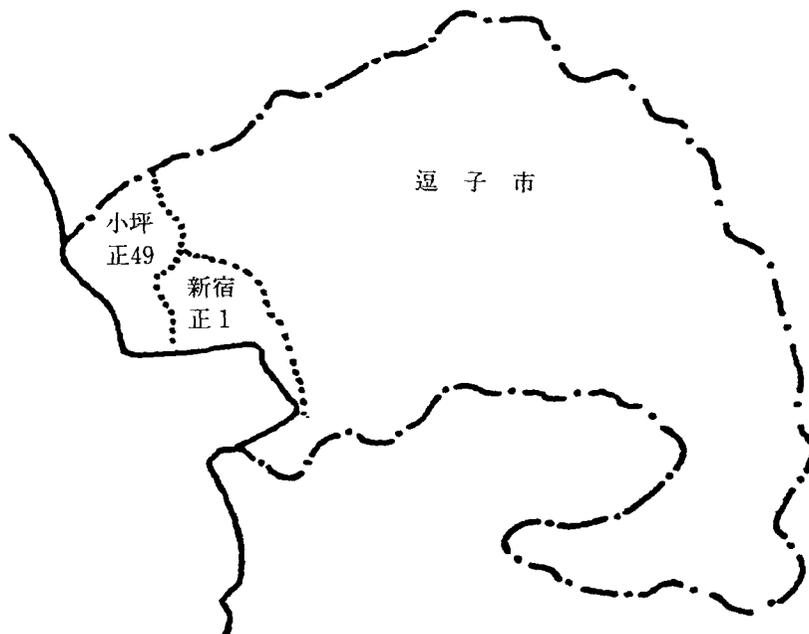
2 小坪漁業協同組合資料（平成2年現在）

1 組合及び組合員の概要

- (1) 組合事務所所在地 神奈川県逗子市小坪5-20-4
- (2) 組合の地区 神奈川県逗子市の区域
- (3) 組合員数及び年齢組成

年齢別	人数			比率
	正	准	計	
20才以下	0	0	0	0
21才～30才	3	0	3	6
31才～40才	2	0	2	4
41才～50才	5	0	5	10
51才～60才	9	0	9	18
61才～70才	15	0	15	31
71才以上	15	0	15	31
法人	1	0	0	—
計	50	0	50	100%

- (4) 組合員の住所地（数字は組合員数）



2 漁業種類及び経営体数

(1) 漁業種類

- ①視突 ②磯どり ③固定式刺網 ④小型定置 ⑤たこつぼ・たこかご
 ⑥はえ縄 ⑦一本釣り ⑧しらす船びき網 ⑨大型定置
 ⑩さより機船船びき網 ⑪曳釣り ⑫わかめ養殖

(2) 専業・兼業別経営体数

専業・兼業別		経営体数	比率
漁業専業		26	68
漁業兼業	漁業が主	5	13
	漁業が従	7	19
計		38	100%

(3) 漁協経営の漁業種類等 なし

(4) 経営体別漁業種類等

専業・兼業別		主な漁業種類	経営体数	他の漁業種類及び漁業以外の主な職業	
専業		視 突	18	小型定置, 固定式刺網, たこかご	
		固定式刺網	3	たこかご, 小型定置	
		たこかご	2	固定式刺網, たこつぼ, 一本釣り, 曳釣り	
		しらす船びき網	2	固定式刺網, わかめ養殖	
		曳 釣 り	1	一本釣り	
兼業	漁業が主	は え 縄	2	一本釣り, わかめ養殖, 曳釣り	遊魚船
		固定式刺網	1	たこかご, わかめ養殖	遊魚船
		一 本 釣 り	1	視突	遊魚船
		大 型 定 置	1	小型定置, さより機船船びき網	魚商
	漁業が従	一 本 釣 り	1	視突	遊魚船
		固定式刺網	1	たこかご, 一本釣り, わかめ養殖	遊魚船
		わかめ養殖	2		遊魚船
	視 突	1		遊魚船	

(5) 組合員の漁業従事状況（雇用されて漁業に従事する状況）

専業従事者	漁業以外の職業を 経営している者	漁業以外の職業に 雇用されている者	計
7人	1人	0人	8人

3 免許を受けている共同漁業権の内容及び行使状況

免 許 内 容		行 使 状 況		
漁業の種類	漁業の時期	着 業		休 業 理 由
		漁 法	漁 期	
わかめ漁業	11月1日～翌年7月31日	視突	2月～3月	
かじめ "	1. 1～12. 31			売り先なし
はばのり "	10. 1～翌年5. 31			着生量が少ない
ほんだわら "	1. 1～12. 31	視突	12	
てんぐさ "	同上	同上	4～6	
さざえ "	同上	同上	11～翌年2	
あわび "	同上	同上	1～2	
とこふし "	同上	同上	11～翌年2	
ばい "	同上			生息していない
ばていら "	同上	磯どり, 視突	2～3	
なまこ "	同上	視突	11～翌年2	
えむし "	同上			生息していない
たこ "	同上	たこつば, 視突	11～翌年2	
うに "	同上	磯どり	同上	
いせえび "	同上	磯建網	8～翌年5	
小型定置いか落し網 "	同上		4～8	
小型定置猪口網 "	同上		6～10	
小型定置底建網 "	同上		12～翌年3	
固定式刺網 "	同上	磯建網	8～翌年5	
		ひらま網	1～12	
		かます網	5～6, 9～12	

4 組合員が行っている漁業概要

(定置漁業権に基づく定置漁業及び区画漁業権に基づく養殖業を除く。)

視突漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
あわび	■	■											20
さぎえ	■	■									■	■	70
とこぶし	■	■									■	■	} 10
たこ	■	■									■	■	
魚類	■	■									■	■	} 少々
なまこ	■	■									■	■	
うに	■	■									■	■	
操業日数	20	20									20	20	操業日数の合計 80日

視突漁業 (ほんだわら切り)

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ほんだわら											■		100
操業日数											20		操業日数の合計 20日

視突漁業 (わかめ切り)

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
わかめ	■	■	■	■	■	■	■						100
操業日数		10	20										操業日数の合計 30日

磯どり漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
てんぐさ				■	■	■							100
操業日数				3	7	3							操業日数の合計 13日

固定式刺網漁業（磯建網）

漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
いせえび													30
さぎえ													50
かわはぎ													5
かさご													5
めばる													5
めじな													5
操業日数	5			10	20			20	20	10	10	10	操業日数の合計 105日

固定式刺網漁業（ひらま網）

漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
したびらめ													50
ひらめ													10
こち													5
いしもち													5
がざみ													5
まこがれい													5
めいたがれい													20
操業日数	5	5	5	15	15	15	15	5	5	5	5	5	操業日数の合計 100日

固定式刺網漁業（かます網）

漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
かます													100
操業日数					5	5			10	15	15	10	操業日数の合計 60日

固定式刺網漁業（きす網）

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
きす					■								100
操業日数					3	3							操業日数の合計 6日

固定式刺網漁業（いなだ網）

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
いなだ									■				100
操業日数									5	20			操業日数の合計 25日

小型定置猪口網漁業（知事許可）

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
いわし	■			■									90 } 10
あじ							■						
かます							■						
操業日数	14	28	28	28	28	28	28	14	28	28	28	28	操業日数の合計 308日

小型定置いか落とし網漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
あおりいか				■										90 } 10
めばる				■										
かわはぎ				■										
操業日数				6	20	20	20	5					操業日数の合計 71日	

小型定置底建網漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
すずき	■	■	■									■	90
たちうお												■	10
操業日数	15	15	15									15	操業日数の合計 60日

たこかご漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
たこ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	90
かさご	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	10
操業日数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	操業日数の合計 180日

あまだい縄漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
あまだい										■	■	■	90
まだい										■	■	■	10
操業日数										10	10	10	操業日数の合計 30日

きす縄漁業

漁獲物	漁期(月)												水揚高の漁獲物別の率 %
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
きす				■	■	■	■						60
めぐち				■	■	■	■						40
操業日数				10	10	10	10						操業日数の合計 40日

一本釣り漁業

漁獲物 \ 漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
さば						■	■	■	■	■	■	■	90
あじ						■	■	■	■	■	■	■	10
操業日数						20	20	20	20	20	20	20	操業日数の合計 140日

しらす船びき網漁業

漁獲物 \ 漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
しらす			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	100
操業日数			15	20	20	20	20	20	20	20	20	20	操業日数の合計 195日

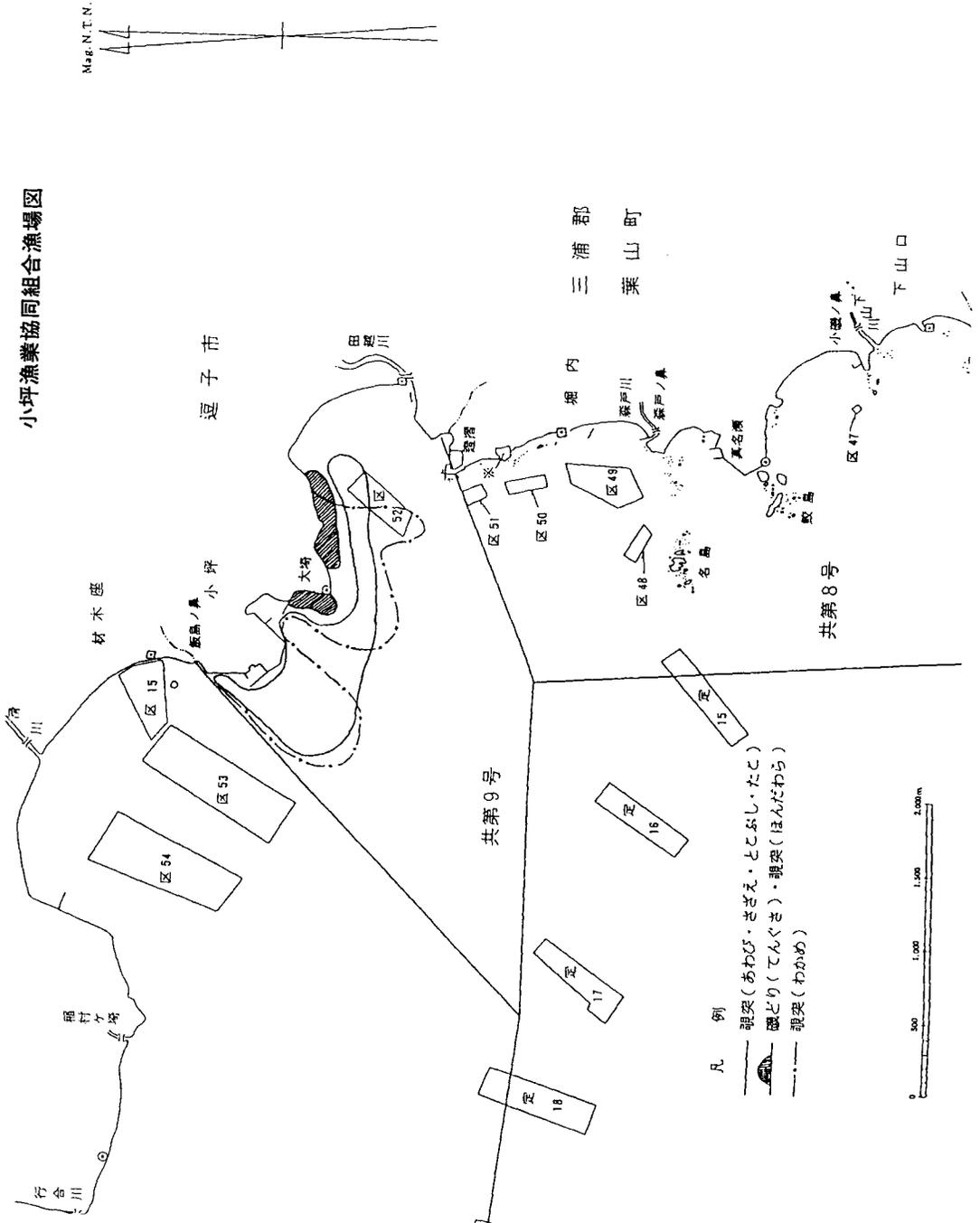
さより機船船びき網漁業

漁獲物 \ 漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
さより	■	■	■	■							■	■	漁がない
操業日数													操業日数の合計 不明

曳釣り漁業

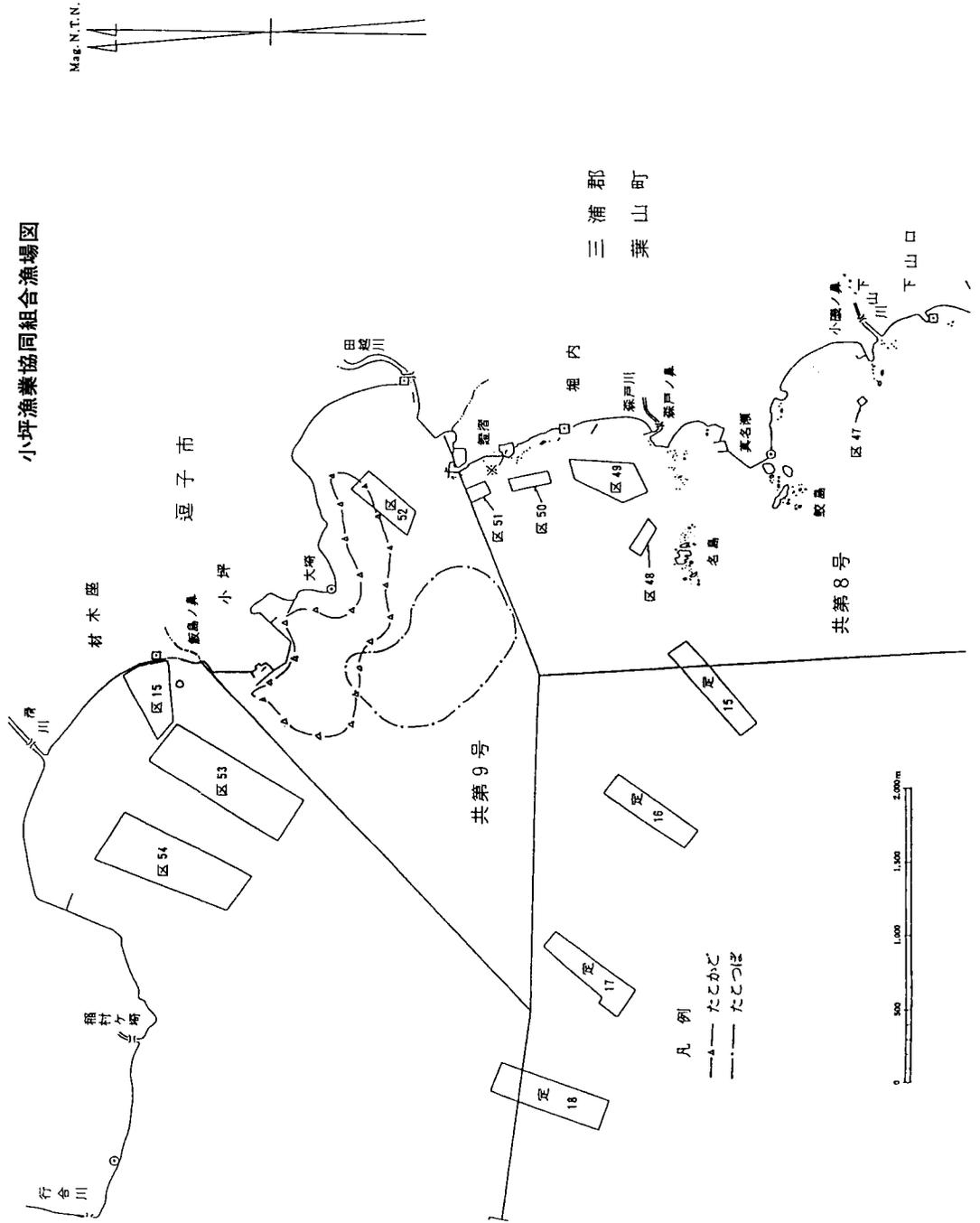
漁獲物 \ 漁期(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	水揚高の漁獲物別の率 %
いなだ									■	■			90
さわら									■	■			10
すずき						■	■	■					100
操業日数						10	10	10	10	10			操業日数の合計 50日

小坪漁業協同組合漁場図

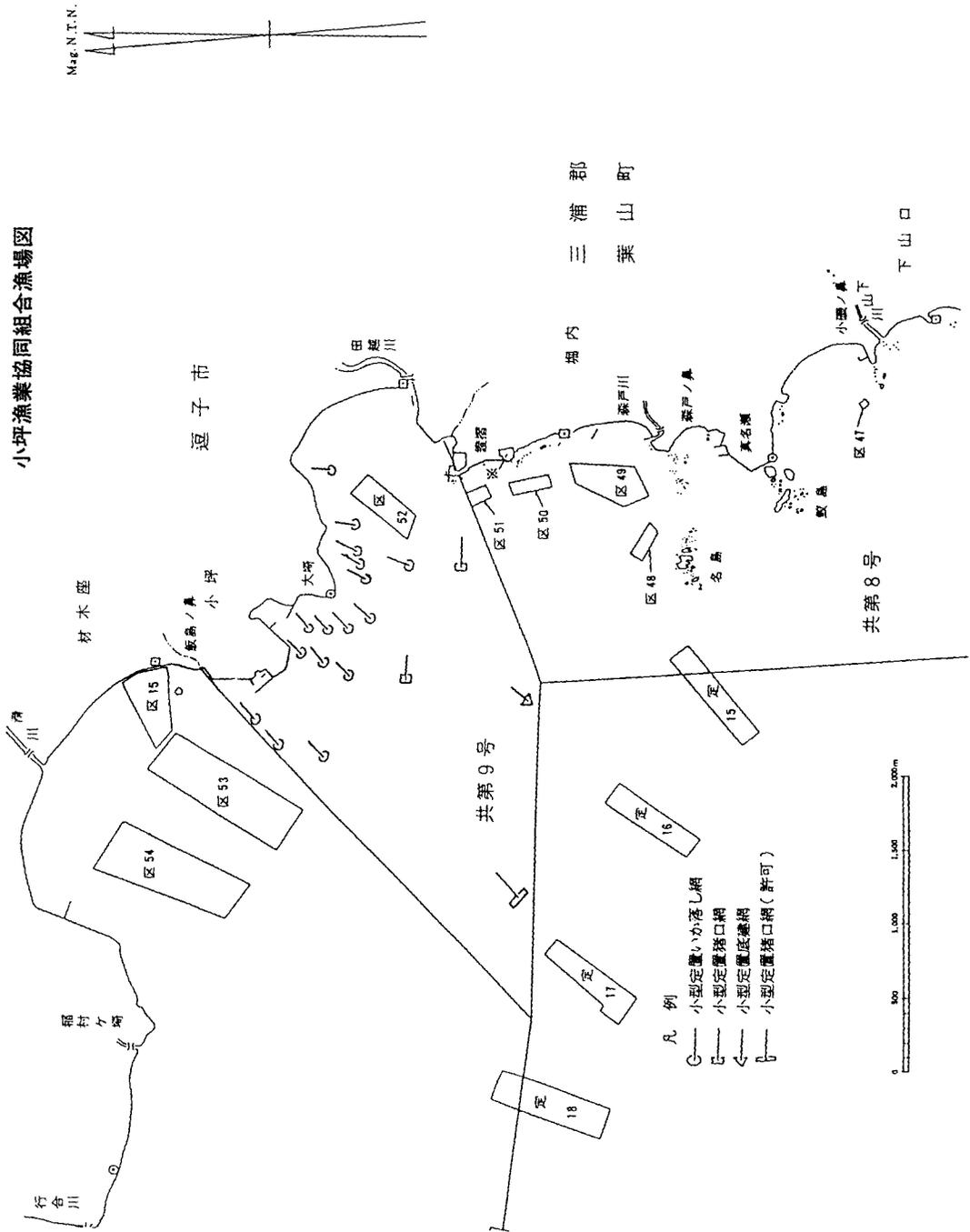


- 凡 例
- 親突 (あわび・ささえ・とこふし・たこ)
 - 隠どり (てんぐさ)・親突 (ほんだわら)
 - 親突 (わかめ)

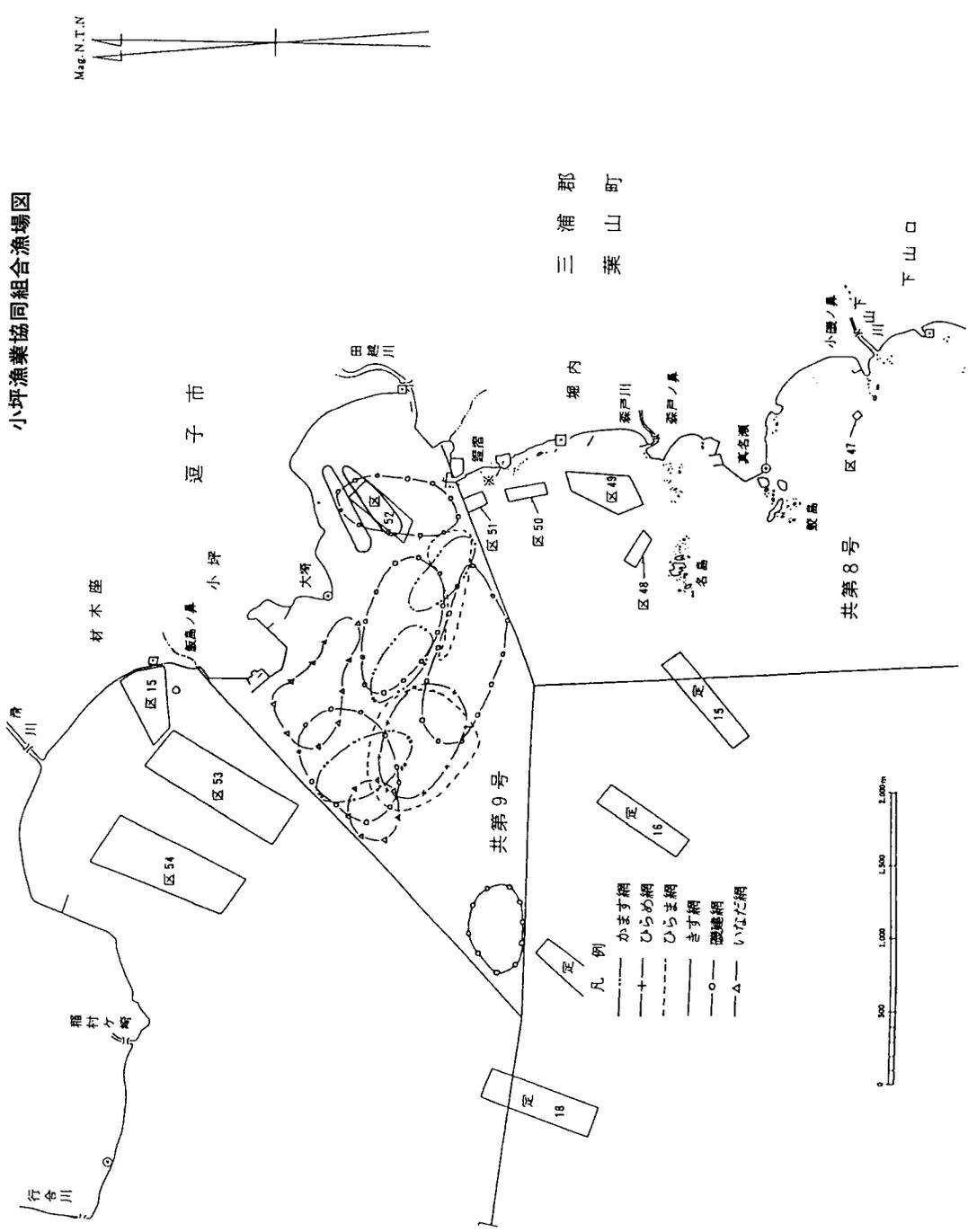
小坪漁業協同組合漁場図



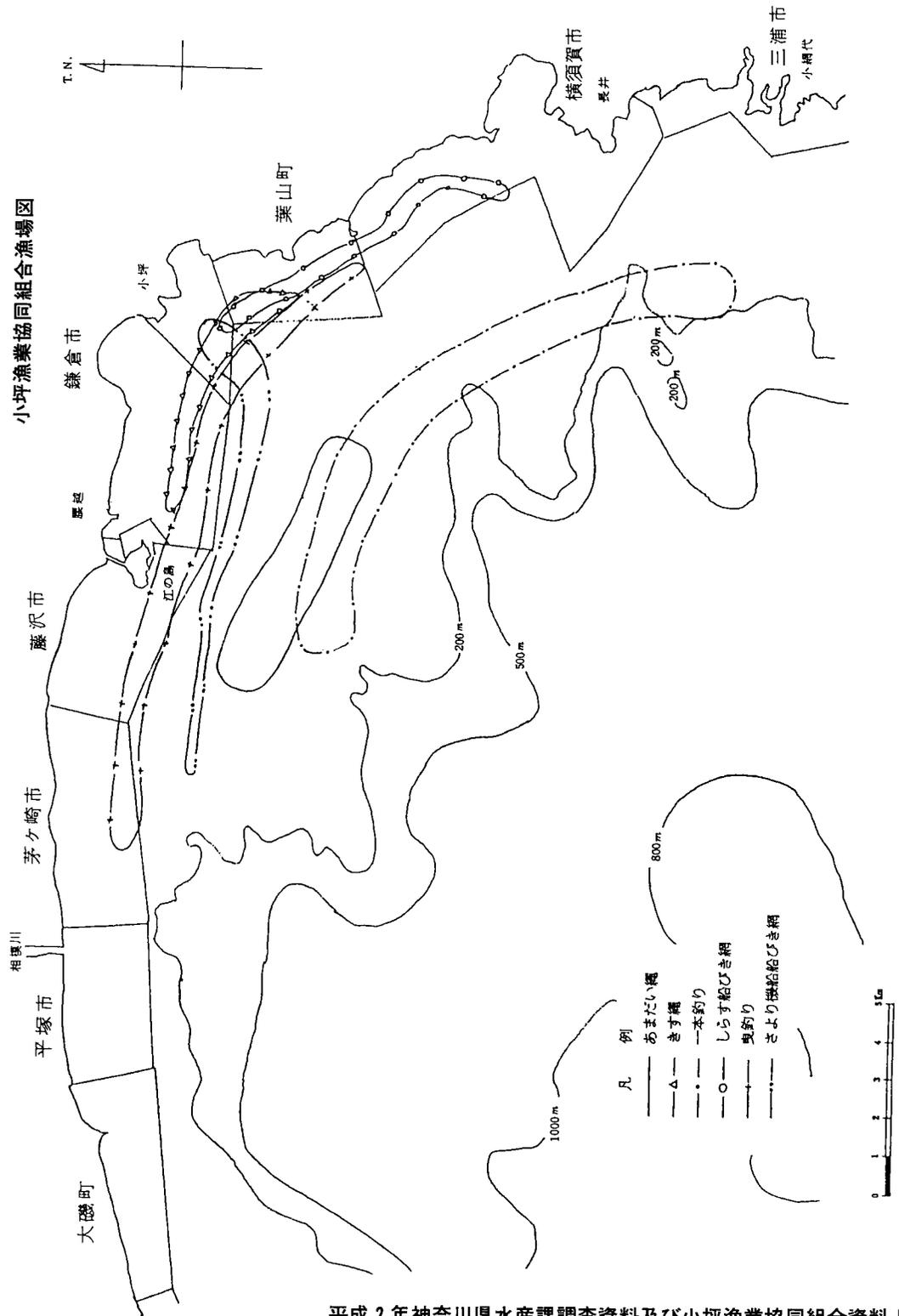
小坪漁業協同組合漁場図



小坪漁業協同組合漁場図



小坪漁業協同組合漁場図



平成 2 年神奈川県水産課調査資料及び小坪漁業協同組合資料より

逗子市漁労具調査団

団長：石井清司，副団長：故 塚田明治

調査員：軽部一一，剣持輝久，海原泰江，宇内正城

調査協力者

小柴 博氏（造船所社長），草柳重太郎氏（地元の古老），一柳由蔵氏（地元の古老），小坪漁業協同組合，神奈川県水産課，現地の調査については，上記の方をはじめとして，多くの地元の方々にご協力やご援助をいただき，厚くお礼申し上げます。

編集発行関係者（順不同）

高木栄一 元教育長，志村哲雄教育部長，富沢正美教育部次長，青山昭一社会教育課長，花井和男社会教育係長，永田寛夫主査，岸田邦美主任，翁川昭洋主事，島村美峰社会教育指導員，降矢順子

平成5年3月20日印刷

平成5年3月25日発行

逗子市文化財調査報告書第15集

小坪の漁労具

編集 逗子市教育委員会

発行者 逗子市 逗子 5 - 2 - 16

電話 0468 (73) 1111(代)

印刷所 山陽印刷株式会社

電話 045 (785) 3434(代)

横浜市金沢区福浦 2 - 1 - 13

©逗子市教育委員会 1993